

Lecuo
STANDARD

特定小電力無線電話装置

P1500

ディーラーズマニュアル

Windows は米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。
Windows XP、Windows Vista、Windows 7は、米国 Microsoft Corporation の米国、日本および/またはその他の国における登録商標または商標です。
Adobe、Adobe Acrobat、Adobe Readerは Adobe Systems Incorporated (アドビ システムズ社) の米国、日本および/またはその他の国における登録商標または商標です。

目次

目次.....	3	詳細表示にする.....	66
安全上のご注意.....	4	P1500設定ツールの各種の設定を行うには.....	68
絵表示について.....	4	チャンネル設定.....	68
特長.....	11	リピータ設定.....	70
付属品.....	12	通話機能設定.....	71
クイックスタートガイド.....	13	電源オン時設定確認.....	73
各部の名称.....	15	初期値設定.....	74
各部の名称と説明.....	15	設定変更モード1、2.....	75
お使いになる前の準備.....	17	設定の書込み.....	77
充電するには.....	17	複数台に同じ設定を書込む場合.....	78
コンセントから充電する場合.....	17	設定内容をファイルに保存する場合.....	78
パソコンから充電する場合.....	19	保存しているファイルを呼び出す場合.....	78
電池を取り付けるには.....	22	周波数対応表.....	79
イヤホンマイクを取り付けるには.....	24	標準通話周波数一覧.....	79
イヤホンマイクの使い方.....	25	中継通話周波数一覧.....	79
ストラップを取り付けるには.....	26	トーン一覧.....	80
基本操作.....	27	工場出荷設定.....	81
電源の入れ.....	27	標準通話.....	81
音量の調節.....	28	リピータ.....	81
チャンネルを合わせるには.....	29	初期値設定.....	81
送信するには.....	30	通話機能設定.....	81
受信するには.....	32	電源オン時設定確認.....	81
通話の種類.....	33	MENU ボタン長押し1.....	81
標準通話について.....	33	MENU ボタン長押し2.....	81
標準通話.....	34	定格、外形寸法.....	82
中継通話について.....	35	本体定格.....	82
グループ通信.....	36	一般仕様.....	82
標準通話・中継通話の設定.....	37	送信仕様.....	82
標準通話/中継通話切替.....	38	受信仕様.....	82
標準通話のチャンネル番号・トーン番号設定.....	39	本体外形寸法.....	83
中継通話のチャンネル番号・トーン番号設定.....	40	オプション.....	84
設定項目の選択と変更.....	41	リチウムイオン電池パック LB150JA.....	84
応用操作.....	41	定格.....	84
チャンネル設定を変更.....	42	外形寸法図.....	84
設定変更モードで設定を変更.....	43	ACアダプター AC150JA.....	85
中継通話切替.....	45	定格.....	85
マイク感度切替.....	45	外形寸法図.....	85
VOX機能設定.....	46	ヘッドセット MP150JA.....	86
VOX感度切替.....	46	定格.....	86
送信保持切替.....	47	外形寸法図.....	86
P1500設定ツールで本機の設定を変更.....	48	USBケーブル AW150JA.....	87
P1500設定ツールを使用可能な状態にする.....	48	外形寸法図.....	87
WindowsXP用デバイスドライバーの		急速充電器(LB150JA専用) CG150JA.....	88
インストール.....	48	定格.....	88
WindowsVista用デバイスのインストール.....	52	外形寸法図.....	88
Windows7用デバイスのインストール.....	56	キャリングケース LC150JA.....	89
P1500設定ツールを起動する.....	63	定格.....	89
本機の設定をパソコンで変更できる状態に		外形寸法図.....	89
するには.....	64	その他.....	90
		故障かな?と思ったら.....	90
		保証・アフターサービス.....	91
		修理を依頼されるときは.....	92

このたびは、特定小電力無線電話装置P1500をお買い上げいただきまして誠にありがとうございます。
 お買い上げいただきました製品に、万が一ご不審な点、お気付きの点などがありましたら、なるべくお
 早めにお買い上げいただきました販売店またはCSRカスタマーサポートへお問い合わせください。

安全上のご注意

- ご使用前に必ずこの「安全上のご注意」と「ディーラーズマニュアル」をよくお読みの上、正しくお使いください。
- お読みになったあとは保証書と一緒にいつでも取り出せる場所に保管してください。

絵表示について

この「安全上のご注意」では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

 警告	この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
 注意	この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負ったり、物的損害の発生が想定される内容を示しています。

■本文中に使われている絵表示の意味は、次のとおりです。

 禁止	 ぬれ手禁止	 水ぬれ禁止	 風呂、シャワー室での使用禁止	
 分解禁止	 指示を守る	 コンセントを抜く	 注意	 感電注意

警告 (無線機について)

- 自動車などの運転中は無線機を操作しないでください。安全運転の妨げとなり、事故の原因となります。



- 当社指定のACアダプター、USBケーブル以外で使用しないでください。火災・感電・故障の原因となります。
- 無線機で使用できる電池パックは当社指定のリチウムイオン電池パックのみです。



- 無線機を分解・改造しないでください。火災・感電・故障の原因となります。
- 電池パックは分解しないでください。電池パックを漏液・発熱・破裂させる原因となります。



- 万一、煙が出ている、変なにおいや音がするなどの異常状態のまま使用すると、火災・感電・故障の原因となります。すぐに機器本体の電源を切ってください。煙が出なくなるのを確認して販売店またはCSRカスタマーサポートに修理をご依頼ください。お客様による修理は危険ですから絶対おやめください。

- 万一、無線機の内部に水などが入った場合は、まず機器本体の電源を切って販売店またはCSRカスタマーサポートにお問い合わせください。そのまま使用すると火災・感電・故障の原因となります。



- 万一、異物が無線機の内部に入った場合は、まず機器本体の電源を切って販売店またはCSRカスタマーサポートにお問い合わせください。そのまま使用すると火災・感電・故障の原因となります。

- 万一、無線機を落としたり、破損した場合は、まず機器本体の電源を切って販売店またはCSRカスタマーサポートにお問い合わせください。そのまま使用すると火災・感電・故障の原因となります。

- 濡れた手で無線機をACアダプターに取り付け・取り外ししないでください。感電の原因となります。



- 無線機は防水構造になっておりません。無線機を水で濡らしたり、水につけたり、水道やシャワーなどの水流を直接かけることはしないでください。火災・感電・故障の原因となります。

- 無線機の上や近くに水などの入った容器または小さな金属物を置かないでください。こぼれたり、中に入った場合、火災・感電・故障の原因となります。



- 充電端子に水滴のついたまま充電しないでください。火災・故障の原因となります。

- 無線機または電池パックは火中へ投げ入れないでください。爆発して火災・やけどなどの原因となります。

- 無線機または電池パックの端子はショートさせないでください。発熱によりやけどの原因となります。電池パックを単品で持ち歩くとショートさせる原因となります。



注意 (無線機について)

- 無線機の分解およびアンテナの付け替え等は、電波法で禁止されています。絶対に行わないでください。改造した機器を使用した場合は、電波法により罰せられますので、ご注意ください。
- 無線機は、特定無線設備の技術基準適合証明等に関する規則（証明規則）第2条8号「工事設計の認証（認証）を受けた無線局」です。無線機の背面に貼られている証明ラベルは絶対にはがさないでください。



- 無線機は、国内仕様です。国外では使用できませんのでご注意ください。



- 航空機内、空港敷地内、新幹線車両、病院などの使用を禁止された場所では、無線機の電源を切ってください。電子機器や医療機器に影響を及ぼす恐れがあります。
- お手入れの際は安全のため電源を切ってください。また、アルコール・ベンジン・シンナーなどの溶剤を含んだ布で拭かないでください。
- 湿気やほこりの多い場所、高温になる場所に置かないでください。火災・感電・故障の原因となることがあります。
- 乳幼児の手の届かないところで、使用・保管してください。
- 不安定な場所に置かないでください。落ちたり、倒れたりして、けが・故障の原因となることがあります。
- 振動・衝撃の多い場所に置かないでください。落ちたり、倒れたりして、けが・故障の原因となることがあります。



⚠ 警告 (リチウムイオン電池パックについて)

- 電池パックの充電を行うときは、0℃～+40℃の温度範囲で行ってください。
- 電池パックには、当社指定の無線機・ACアダプター・USBケーブル以外を使用しないでください。火災・感電・故障の原因となります。



- 電池パックは火中へ投げ入れないでください。爆発して火災・やけどの原因となります。
- 電池パックのケーブルに直接はんだ付けしないでください。
- 電池パックのケーブルはショートさせないでください。発熱によりやけどの原因となります。
- 電池パックを単品で持ち歩くとショートさせる原因となります。



- 電池パックは分解しないでください。



- 電池パックを水の中に落とした場合は使用しないでください。
- 電池パックから漏液し、目に入ったときは、こすらずにすぐきれいな水で十分に洗ったあと、ただちに医師の診察を受けてください。放置すると液により目に障害を与える原因となります。
- 電池パックから漏液し、皮膚や衣服に付着した場合は、すぐにきれいな水で洗い流してください。炎症等の皮膚障害を起こす原因となります。



- 万一、煙が出ている、変なおいや音がするなどの異常状態のまま使用すると、電池パックの漏液・発熱・破裂・発火・破損および性能や寿命の低下の原因になります。すぐに無線機の電源を切ってください。煙が出なくなるのを確認して販売店またはCSRカスタマーサポートにお問い合わせください。
- 万一、電池パックを落としたり、破損した場合は、まず無線機の電源を切って販売店またはCSRカスタマーサポートにお問い合わせください。そのまま使用すると電池パックの漏液・発熱・破裂・発火・破損および性能や寿命の低下の原因になります。



- 濡れた手で電池パックを無線機に取り付け・取り外ししないでください。また、電池パックは濡れた手で充電などを行わないでください。電池パックの漏液・発熱・破裂・発火・破損および性能や寿命の低下の原因になります。



- 電池パックは防水構造になっておりません。電池パックを水で濡らしたり、水につけたり、水道やシャワーなどの水流を直接かけることはしないでください。電池パックの漏液・発熱・破裂・発火・破損および性能や寿命の低下の原因になります。



- 電池パックの上や近くに水などの入った容器を置かないでください。こぼれたりした場合、電池パックの漏液・発熱・破裂・発火・破損および性能や寿命の低下の原因になります。
- 無線機のイヤホンマイク/USBケーブル接続端子に水滴のついたまま充電しないでください。充電端子の腐食や電池パックの漏液・発熱・破裂・発火・破損および性能や寿命の低下の原因になります。
- 濡れた布に電池パックの端子をあてて置かないでください。充電端子の腐食や電池パックの漏液・発熱・破裂・発火・破損および性能や寿命の低下の原因になります。
- 電池パックはプラス・マイナスの向き(コネクターの向き)が決められています。無線機に接続する時にうまくつながらない場合は無理に接続しないでください。プラス・マイナス(コネクターの向き)を逆に接続すると、電池パックが逆に充電され内部で異常な反応が起こり、電池パックを漏液、発熱、破裂、発火させる原因となります。
- 電池パックはACアダプター・USBケーブルを介さずに直接電源コンセントや自動車のシガレットライターの差込口に接続しないでください。感電したり、高い電圧が加えられることによって過大な電流が流れ、電池パックを漏液、発熱、破裂、発火させる原因になります。



警告 (リチウムイオン電池パックについて)

- 電池パックを自動車のダッシュボードや窓際など直射日光の当る場所、炎天下駐車の内など、高い温度になる場所で充電しないでください。高温になると危険を防止するための保護機構が働き、充電できなくなったり、保護回路が壊れて異常な電流や電圧で充電され、発熱、破裂、発火の原因になります。
 - 電池パックを電子レンジや高圧容器などに入れしないでください。急に加熱されたり、密封状態が壊れたりして、発熱、破裂、発火の原因になります。
 - 電池パックに高所からの落下など強い衝撃を与えたり、投げつけたりしないでください。電池パックが変形したり、電池パックに組み込まれている保護機構が壊れ、異常な電流、電圧で電池パックが充電される可能性があり、発熱、破裂、発火の原因になります。
 - 電池パックに釘を刺したり、ハンマーで叩いたり、踏みつけたりしないでください。電池パックが変形、保護機構が破損する可能性があり、発熱、破裂、発火の原因になります。
- 充電を行うときに、所定の充電時間を越えても充電が終了しない場合、無線機からUSBケーブルを抜き、充電を停止してください。電池パックの漏液・発熱・破裂・発火・破損および性能や寿命の低下の原因になります。



注意 (リチウムイオン電池パックについて)

- 電池パックは、国内仕様です。国外では使用できませんのでご注意ください。
- お手入れの際は安全のため無線機の電源を切って、ACアダプターは無線機から外してください。また、アルコール・ベンジン・シンナーなどの溶剤を含んだ布で拭かないでください。
- 湿気やほこりの多い場所、高温になる場所に置かないでください。
- 乳幼児の手の届かないところで、使用・保管してください。
- 不安定な場所に置かないでください。落ちたり、倒れたりして、けが・故障の原因となることがあります。
- 振動・衝撃の多い場所に置かないでください。落ちたり、倒れたりして、けが・故障の原因となることがあります。
- 電池パックを無線機に付けて使用するときは、 -10°C ~ $+50^{\circ}\text{C}$ の温度範囲で行ってください。
- 充電が出来ないとき、あるいは充電が完了した電池パックを無線機に取り付けても電源が入らないときは、使用を中止してください。
- 長期間電池パックを使用しないときは、乾燥した冷暗所にて保管してください。高温多湿の環境で長期間保管しますと、電池パックの性能を劣化させることがあります。



不要になったリチウムイオン電池パックは廃棄せず、販売店またはCSRカスタマーサポートにご持参ください。



警告 (ACアダプターについて)

- ACアダプターは交流電源100 V以外の電圧で使用しないでください。火災・感電・故障の原因となります。
- ACアダプターには当社指定の無線機・電池パック以外を使用しないでください。火災・感電・故障の原因となります。
- ACアダプターはタコ足配線をしないでください。火災・過熱の原因となります。



- ACアダプターを分解・改造しないでください。火災・感電・故障の原因となります。
- USBケーブルを加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったりしないでください。火災・感電・故障の原因となります。
- USBケーブルが傷んだら販売店またはCSRカスタマーサポートにお問い合わせください。そのまま使用すると火災・感電・故障の原因となります。



- 万一、煙が出ている、変なおいや音がするなどの異常状態のまま使用すると、火災・感電・故障の原因となります。必ずACアダプターの電源プラグをコンセントから抜いてください。煙が出なくなるのを確認して販売店またはCSRカスタマーサポートに修理をご依頼ください。お客様による修理は危険ですから絶対おやめください。
- 万一、ACアダプターの内部に水などが入った場合は、必ずACアダプターの電源プラグをコンセントから抜いて販売店またはCSRカスタマーサポートにお問い合わせください。そのまま使用すると火災・感電・故障の原因となります。
- 万一、異物がACアダプターの内部に入った場合は、必ずACアダプターの電源プラグをコンセントから抜いて販売店またはCSRカスタマーサポートにお問い合わせください。そのまま使用すると火災・感電・故障の原因となります。
- 万一、ACアダプターを落としたり、破損した場合は、必ずACアダプターの電源プラグをコンセントから抜いて販売店またはCSRカスタマーサポートにお問い合わせください。そのまま使用すると火災・感電・故障の原因となります。



- 濡れた手でACアダプターの電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となります。



- ACアダプターを他の機器の電源として使用しないでください。火災・感電・故障の原因となります。
- ACアダプターのUSBケーブルの上に重いものを乗せたりしないようにしてください。ケーブルに傷がついて、火災・感電・故障の原因となります。コードの上を敷物などで覆うことにより、それに気付かず、重い物をのせてしまうことがあります。
- ACアダプターの上や近くに小さな金属物を置かないでください。中に入った場合、火災・感電・故障の原因となります。
- ACアダプターの上や近くにろうそく等の炎が発生しているものを置かないでください。火災の原因となります。



- 雷が鳴り出したら、ACアダプターには触れないでください。感電の原因となります。



- ACアダプターを風呂場では使用しないでください。火災・感電・故障の原因となります。
- ACアダプターの上や近くに水などの入った容器を置かないでください。こぼれたり、中にはいった場合、火災・感電・故障の原因となります。



警告 (ACアダプターについて)

- 電池パックはプラス・マイナスの向き（コネクターの向き）が決められています。無線機に接続する時にうまくつながらない場合は無理に接続しないでください。プラス・マイナス（コネクターの向き）を逆に接続すると、電池パックが逆に充電され内部で異常な反応が起こり、電池パックを漏液、発熱、破裂、発火させる原因となります。
- 電池パックはACアダプター・USBケーブルを介さずに直接電源コンセントや自動車のシガレットライターの差込口に接続しないでください。感電したり、高い電圧が加えられることによって過大な電流が流れ、電池パックを漏液、発熱、破裂、発火させる原因になります。
- 電池パックを自動車のダッシュボードや窓際など直射日光の当る場所、炎天下駐車の内車など、高い温度になる場所で充電しないでください。高温になると危険を防止するための保護機構が働き、充電できなくなったり、保護回路が壊れて異常な電流や電圧で充電され、発熱、破裂、発火の原因になります。
- 電池パックを電子レンジや高圧容器などに入れしないでください。急に加熱されたり、密封状態が壊れたりして、発熱、破裂、発火の原因になります。



注意 (ACアダプターについて)

- ACアダプターが近くのテレビ・電子機器・医療機器等に影響を与えるときは、ご使用にならないでください。
 - 旅行などで長期間、充電器をご使用にならないときは、安全のため必ずACアダプターの電源プラグをコンセントから抜いてください。
 - お手入れの際は安全のためACアダプターの電源プラグをコンセントから抜いて行ってください。
 - 移動させる場合は、ACアダプターの電源プラグをコンセントから抜いて行ってください。接続されているUSBケーブルが傷つき、火災・感電・故障の原因となることがあります。
 - 万一の事故防止のため、ACアダプターを電源コンセントの近くに置き、すぐに電源コンセントからプラグを取り外せる環境でご使用ください。
-
- 湿気やほこりの多い場所に置かないでください。火災・感電・故障の原因となることがあります。
 - 乳幼児の手の届かないところで、使用・保管してください。
 - 不安定な場所に置かないでください。落ちたり、倒れたりして、けが・故障の原因となることがあります。
 - 振動・衝撃の多い場所に置かないでください。落ちたり、倒れたりして、けが・故障の原因となることがあります。
 - ACアダプターに接続されているUSBケーブルを熱器具に近づけないでください。USBケーブルの被覆が溶けて、火災・感電・故障の原因となることがあります。
 - ACアダプターの電源プラグを抜くときは、必ずACアダプターを持って抜いてください。接続されているUSBケーブルを引っ張るとUSBケーブルが傷ついて火災・感電・故障の原因となることがあります。



特長

- 本機は、電波法施工規則第6条「特定小電力無線」に該当する400MHz帯の無線機で、特定無線設備の技術基準適合証明等に関する規則（証明規則）第2条8号「工事設計の認証（認証）を受けた無線局です。免許および申請手続きは一切不要ですので、お買い上げいただいたその日から、ご使用になれます。
- 本機はハンズフリーでお話ができるVOX（ボックス）機能※があります。
※ VOX機能とは音声を検知して自動で送信する機能のことです。
- 本機は混信を避けるためのトーン（CTCSS）があります。トーン番号が同じ相手とのみ会話をすることができます。トーン番号を使うと1つのチャンネルで最大38グループの設定が可能です。
- 本機はアンテナが無く、他の無線機のようなメカニカルなデザインを払拭しました。薄型で女性が身につけても違和感がありません。
- 本機はマイク、スピーカーを内蔵せずスリムなデザインになっております。ご使用の際には付属の専用イヤホンマイクをお使いください。
- 本機はチャンネル設定等の内容を音声ガイドにより案内いたします。また、インジケータの色で本機の状態をお知らせいたします。
- 通話距離は、周囲の建物等の状況により異なりますが、見通しの良い場所では約300mです。
- 本機はカスタマイズ性が高く、ほぼ全ての設定を「P1500設定ツール」を用いることで変更できます。お使いの環境に合わせて最適な設定が可能です。「P1500設定ツール」のご使用に関しましては、お買い上げいただきました販売店またはCSRカスタマーサポートへお問い合わせください。

付属品

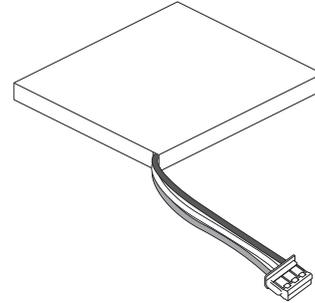
はじめに、下記の付属品が揃っているかご確認ください。

万が一不足しているものがありましたら、お買い上げの販売店またはCSRカスタマーサポートにお問い合わせください。

無線機本体.....1



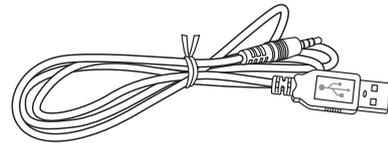
リチウムイオン電池パック LB150JA.....1



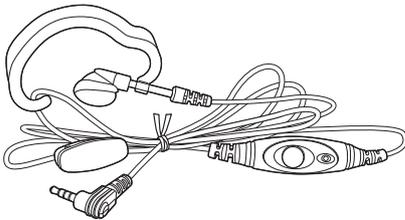
簡易取扱説明書.....1



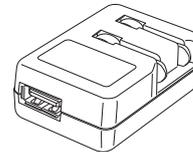
USB ケーブル AW150JA.....1



イヤホンマイク MP150JA.....1



AC アダプター AC150JA.....1



保証書.....1

アドバイス

- リチウムイオン電池パックは、ご購入時には既に無線機に取り付けられています。

クイックスタートガイド

- 本機の操作の詳細は、この後のページをよくご覧になり正しくお使いください。
- 「安全上のご注意」(P.4～P.10)の各項目には本機を安全にお使いいただくための重要な項目が書かれています。本機をご使用になる前に必ずお読みください。

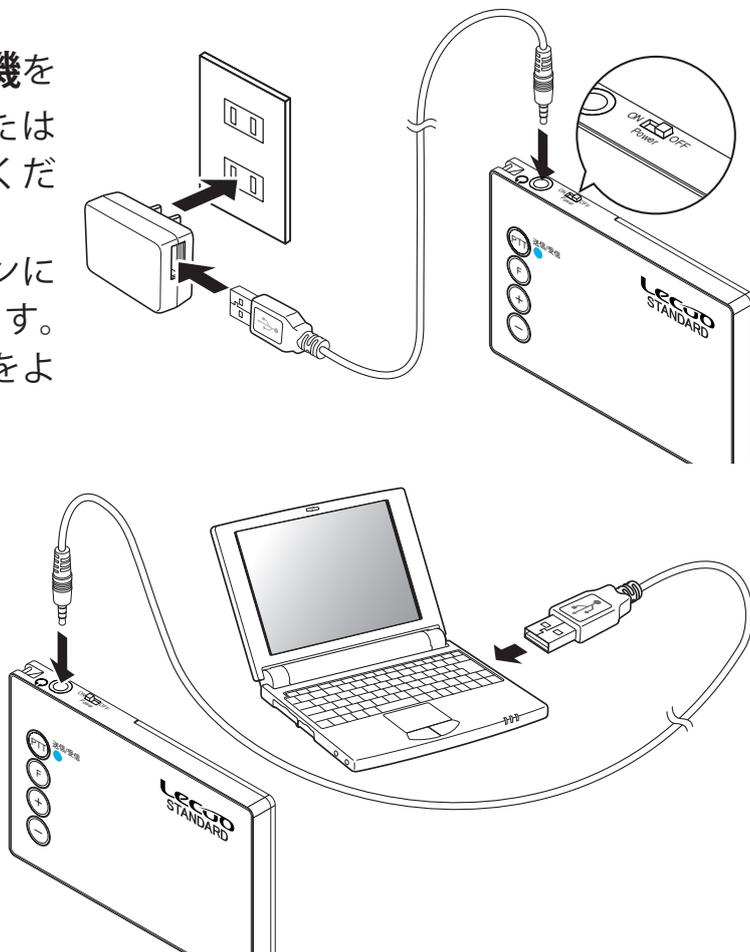
1 充電する (P.17)

電源スイッチを**OFF側にした本機**をUSBケーブルでACアダプターまたはパソコンのUSB端子*と接続してください。

*USB端子と接続しても、パソコンにより充電できない場合があります。お使いのパソコンの取扱説明書をよくご覧ください。

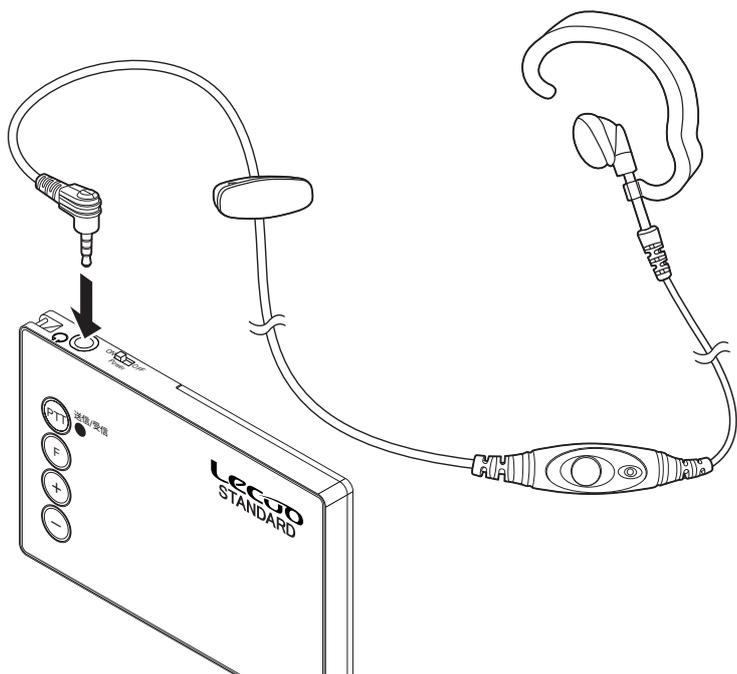
また市販のUSBケーブルをご使用の際は使用できないものがあります。当社指定のUSBケーブルを使用してください。

お買い上げの直後、電池パックは満充電されておりません。お使いになる前に必ず充電してからご使用ください。本機ランプの青色が消灯したら充電完了です。



2 イヤホンマイクを取り付ける (P.24)

イヤホンマイクのプラグを本機に挿入した後に、イヤホンを耳に入れてください。



クイックスタートガイド (続き)

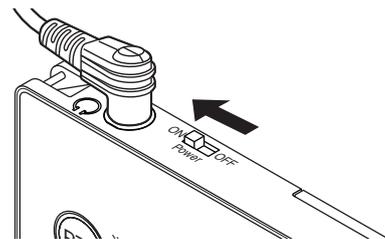
3 電源を入れる (P.27)

電源を入れるには、電源スイッチをON側にスライドしてください。ランプが橙色に点灯します。

電源が入ると本機の設定を音声ガイドで案内します。

音声ガイドの例 (初期値) :

「設定はチャンネル10、トーン無しです。」

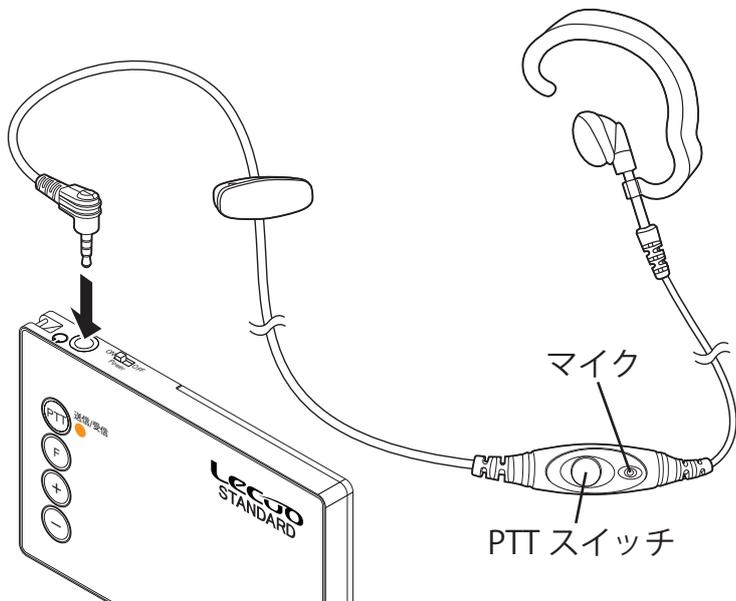


4 音量を合わせる (P.28)

電源が入ると本機の設定を音声ガイドでお知らせします。

本機の [+] または [-] ボタンを押して、音量を5段階で調整できます。

本機の [+] または [-] ボタンを押して、音量が最大または最小になったときは、「ポーン」という音が聞こえます。



5 送信する (P.30)

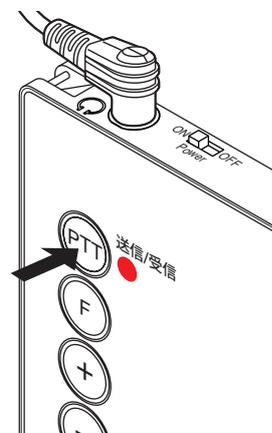
本機の [PTT] ボタンまたはイヤホンマイクのPTTスイッチを押してください。

本機の [PTT] ボタンまたはイヤホンマイクのPTTスイッチを押しながら、イヤホンマイクのマイクに向かって話します。

本機の [PTT] ボタンまたはイヤホンマイクのPTTスイッチが押されるとランプが赤色に点灯します。

設定されているチャンネルや設定内容で送信されます。

相手の方とチャンネルや設定が違う場合は、通話できません。設定を合わせてください。



6 受信する (P.32)

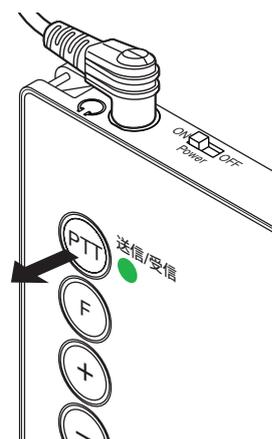
本機の [PTT] ボタンまたはイヤホンマイクのPTTスイッチを離します。

相手が送信すると、相手の音声が入りから聞こえます。

受信するとランプが緑色に点灯します。

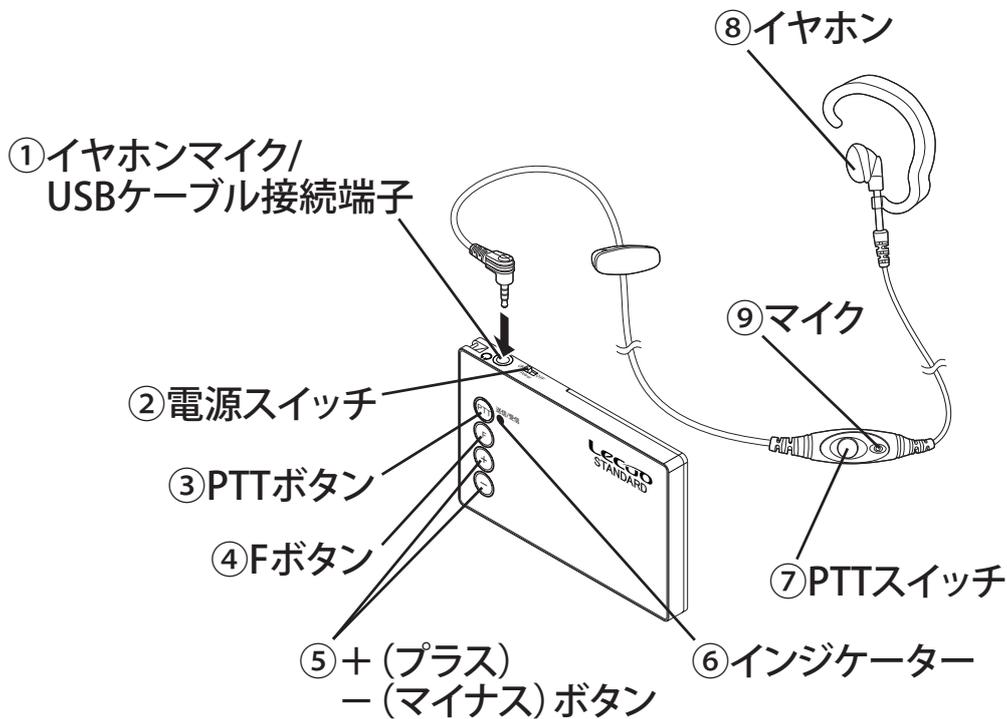
設定されているチャンネルや設定内容で受信ができます。

相手の方とチャンネルや設定が違う場合は、通話できません。設定を合わせてください。



各部の名称

各部の名称と説明



① イヤホンマイク/USBケーブル接続端子

- 通話の際にイヤホンマイクを接続します。
- 充電を行う場合、および「P1500 設定ツール」で設定情報を変更する際にUSBケーブルを接続します。

② 電源スイッチ

- このスイッチをON側へスライドすると電源が入ります。
- OFF側にスライドすると電源が切れます。

③ PTTボタン

- このボタンを押している間、送信状態 (呼び出し状態) となります。離すと待ち受け状態に戻ります。

④ Fボタン

- このボタンを短く押すと音声ガイドにより設定内容を確認することができます。音声ガイドによる設定内容の案内はクイック設定確認*が設定されている場合です。

※初期状態で設定されています。

- このボタンを2秒間長押しするとチャンネル切替になります。+ (プラス) / - (マイナス) ボタンを押すことでチャンネルが切り替わりますので、相手の方とチャンネルを合わせてください。チャンネルを合わせましたら、再度Fボタンを押してチャンネルを確定させてください。その後、電源スイッチをOFF側にスライドして電源を切ってください。

⑤ + (プラス) - (マイナス) ボタン

- 音量の調節、各種設定を変更する際に使用します。
- 音量は5段階で調整できます。音量が最大または最小になったときは、「**ポーン**」という音がイヤホンから聞こえます。

⑥ インジケーター

- 本機の状態を点灯するランプの色でお知らせします。

色		状態
	赤	送信中
	赤点滅 [※]	障害検出
	橙点滅 (速い)	要充電
	緑	受信中
	青	充電中
	青→消灯	充電完了
	橙点滅 (遅い)	パソコンでの設定変更可能
	橙点灯	電源オン(待ち受け中)

※ランプが赤色点滅した際には、お買い上げの販売店またはCSRカスタマーサポートへお問い合わせください。

⑦ PTTスイッチ

- このスイッチを押している間、送信状態(呼び出し状態)となります。離すと待ち受け状態に戻ります。

⑧ イヤホン

- ここから受信した音声や音声ガイドが聞こえます。

⑨ マイク

- 本機の [PTT] ボタンまたはイヤホンマイクのPTTスイッチを押しながら、通話するときはこちらに向かって話します。

お使いになる前の準備

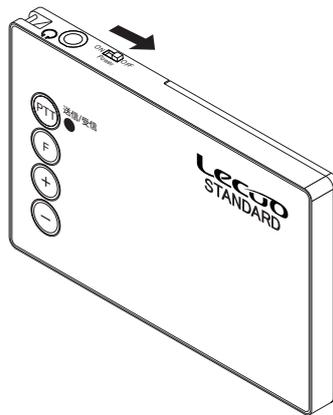
充電するには

お買い上げ直後の電池パックは満充電されていません。お使いになる前に必ず充電してからご使用ください。充電する場合は本機の電源を切った状態にしてください。充電方法は、付属のACアダプターを使う方法とパソコンのUSB端子を使う2通りあります。

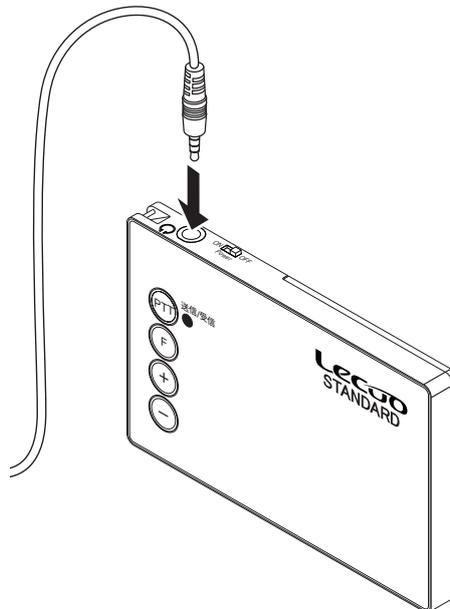
インジケータの橙色ランプが点滅したら、電池の残りが少なくなっています。早めに充電をおこなってください。

コンセントから充電する場合

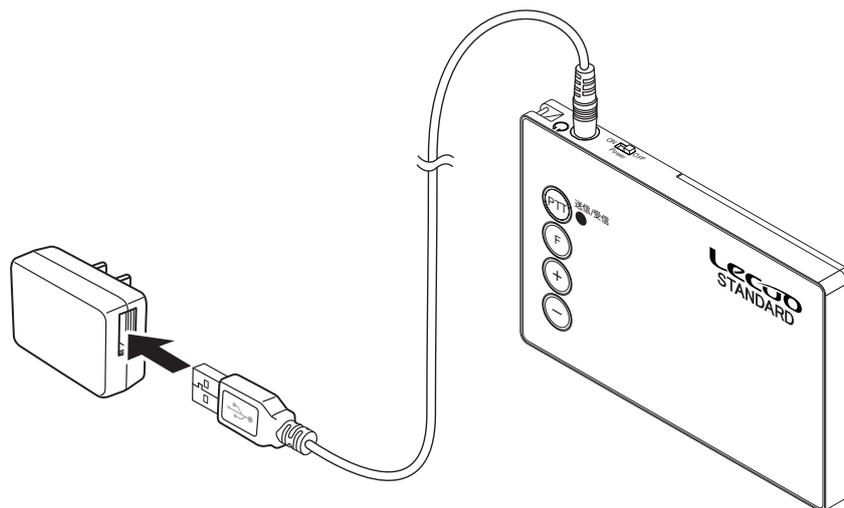
- 1 電源スイッチをOFF側へスライドさせて、電源を切る



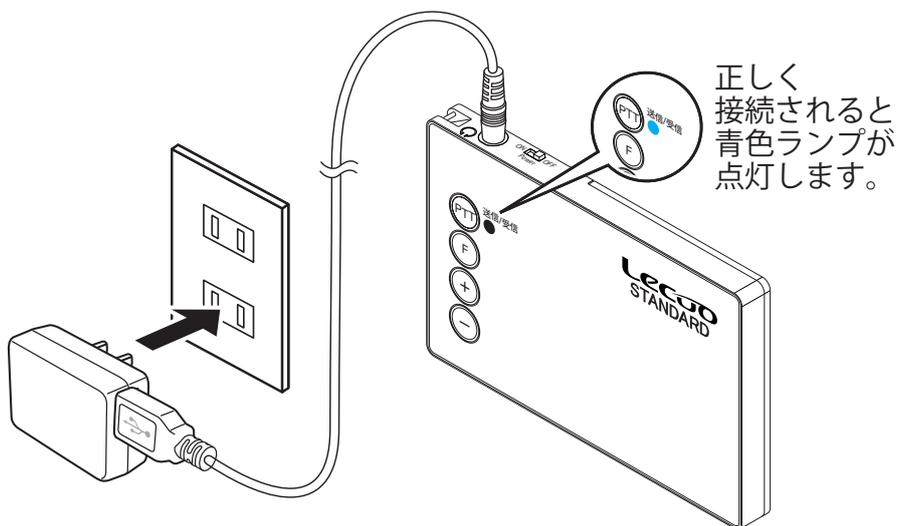
- 2 USBケーブルの3.5φプラグを本機のイヤホンマイク/USBケーブル接続端子に接続する



③ USBケーブルのUSBプラグをACアダプターに接続する



④ ACアダプターの電源プラグをAC（交流）100Vのコンセントに接続する
● 青色ランプが点灯し充電が始まります。



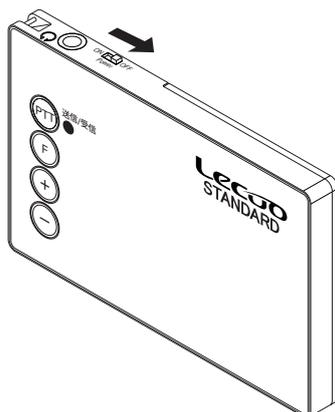
⑤ 青色ランプが消灯したら、USBケーブルを本機とACアダプターから外す

 **アドバイス**

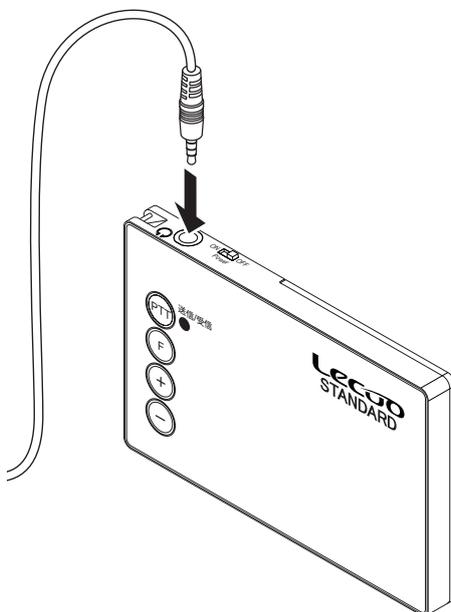
- 充電時間の目安は約4時間です。

パソコンから充電する場合

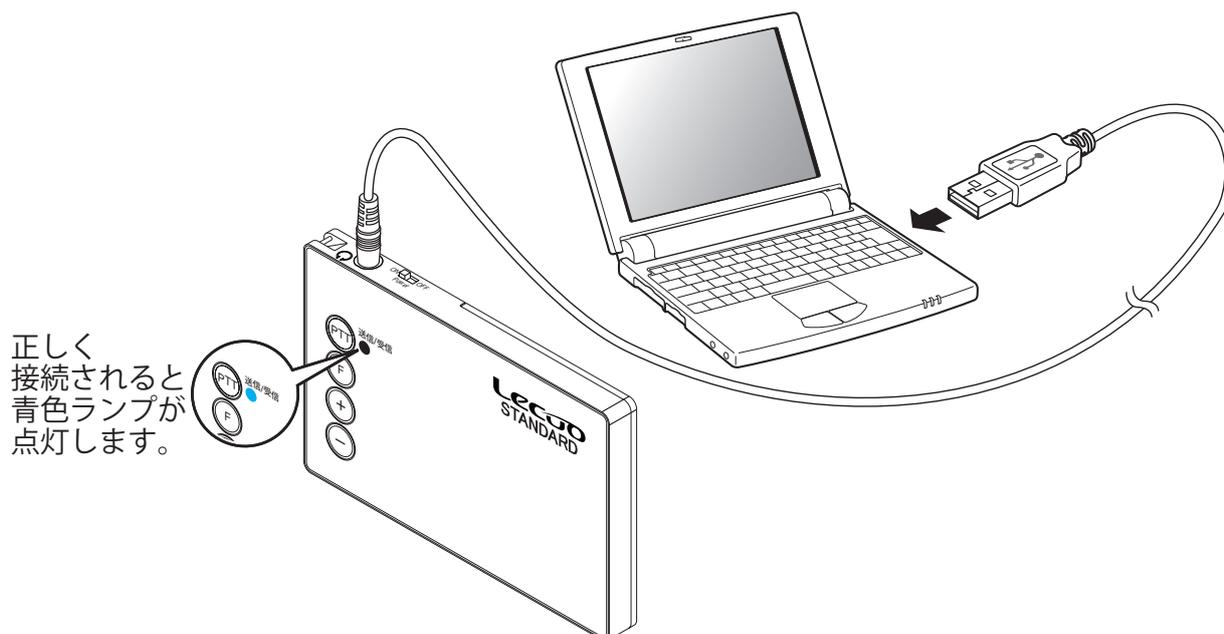
- ① 電源スイッチを **OFF** 側へスライドさせて、電源を切る



- ② USBケーブルの3.5φプラグを本機のイヤホンマイク/USBケーブル接続端子に接続する



- ③ USBケーブルのUSBプラグをパソコンのUSB端子に接続する
- 青色ランプが点灯し充電が開始します。



- ④ 青色ランプが消灯したら、USBケーブルを本機とパソコンから外す

⚠ 警告

- ACアダプターを接続できるのは、AC（交流）100Vの家庭用電源のみです。他の電源を使用するとACアダプターの故障や感電、発火の原因となります。

📖 アドバイス

- 電源が切られていないと充電は開始されません。充電の際には、必ず電源を切ってから行ってください。
- 青色ランプが消えた時点では、本機が使える状態にまで充電されていますが、満充電ではありません。満充電にする場合は、青色ランプが消灯してから約30分続けて充電してください。
- 満充電後、ほとんど電池を消費せずに再充電した場合、青色ランプが点灯しないことがあります。
- 電池を使い切り、その直後すぐに充電を行うとインジケーターが青色に点灯しないことがあります。このような場合でも、1～2分程度で充電が始まり、インジケーターが青色に点灯しますので、そのまま充電を続けてください。
- 充電時間の目安は約4時間です。
- パソコンのUSB端子と接続しても、お使いのパソコンにより充電できない場合があります。お使いのパソコンの取扱説明書をよくご覧ください。
- 市販のUSBケーブルをご使用の際は使用できないものがあります。当社指定のUSBケーブルを使用してください。

お願い

充電は、本機の電源を切った状態で行ってください。電源を入れたままでは充電が開始されません。

- 充電中に本機やACアダプターまたはパソコンにショックを加えたりしますと、充電完了になる場合があります。

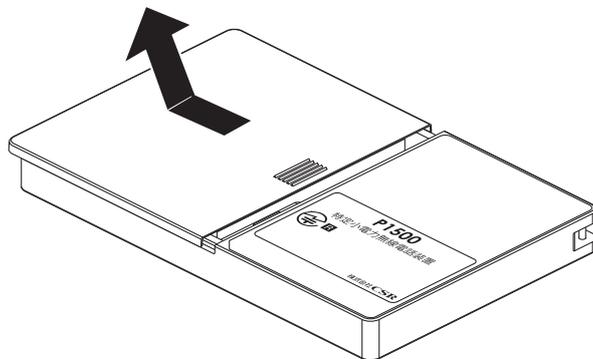
その場合には、もう一度、USBケーブルを接続しなおしてください。確認のための充電は、一回のみに行ってください。

- 充電中、充電完了直後は、ACアダプターおよび本機が暖かくなりますが、異常ではありません。
- 充電が完了した本機は、繰り返し充電しないでください。電池パックが過充電になり、電池パックの性能が劣化したり、寿命が短くなることがあります。
- 本機を初めてご使用になるとき、また長期間ご使用にならなかったときは、必ず充電してからご使用ください。
- 本機のイヤホンマイク/USBケーブル接続端子、ACアダプターおよびUSBケーブルの各プラグが汚れていると、正常に充電できないことがあります。端子やケーブルはいつもきれいにし、汚れている時は汚れを落としてからご使用ください。

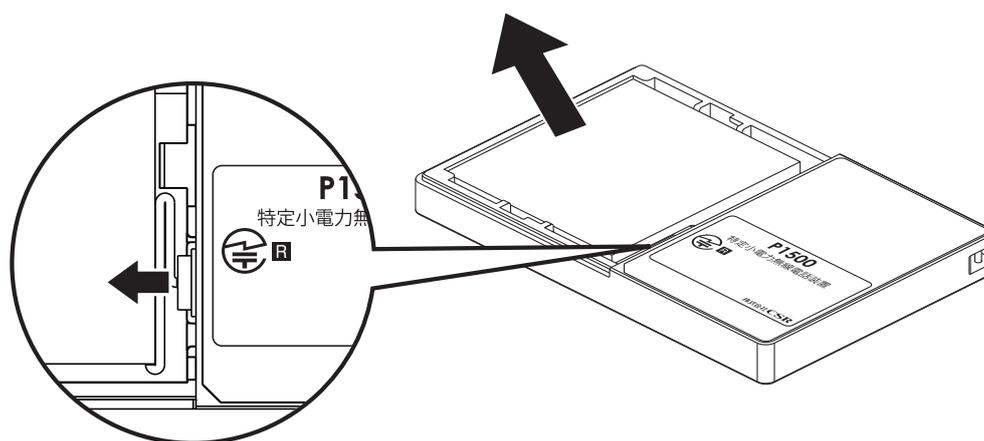
電池を取り付けるには

満充電を行った場合でも電池の消耗が早い、または充電が直ぐに終了する場合などは電池の寿命が考えられます。新しい電池 (LB150JA) と交換してください。

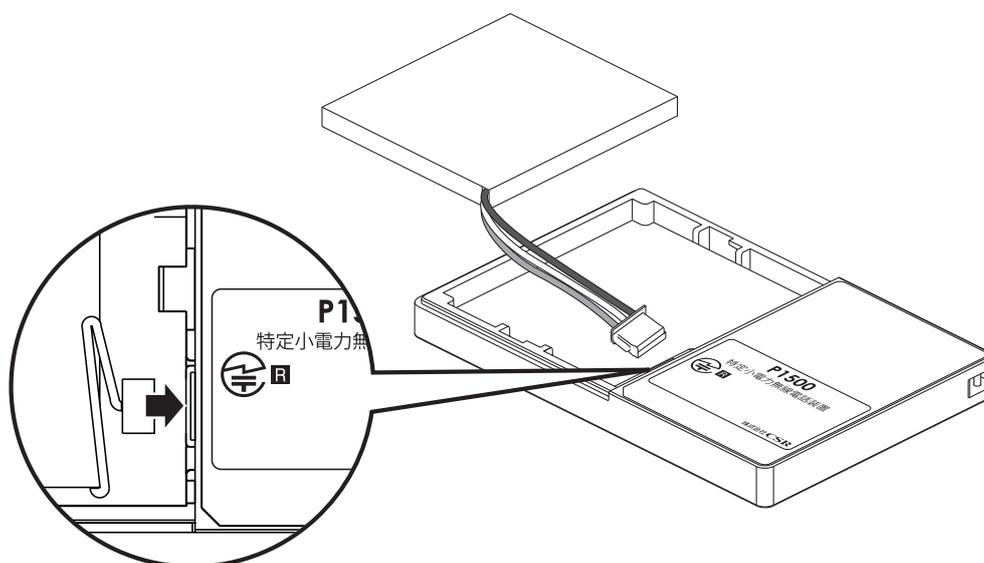
- ① 本機の電池ケース蓋を少しスライドさせた後、電池ケース蓋を持ち上げるように取り外す



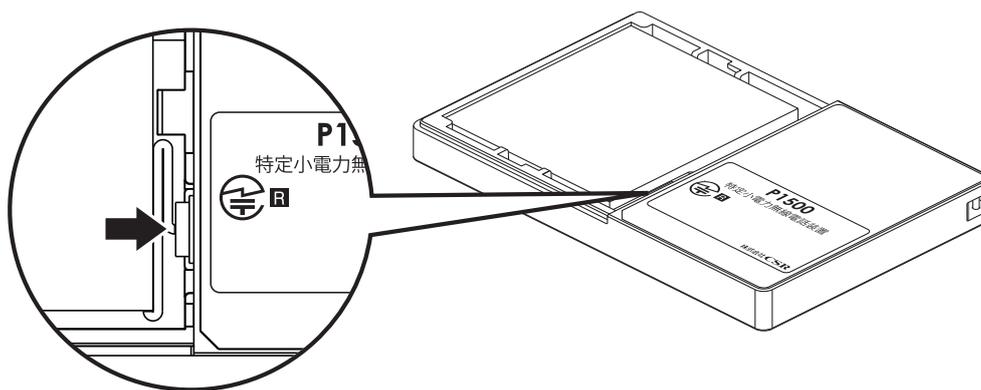
- ② 中に入っている電池パックを取り出し、電池パックと本機をつないでいるケーブルのコネクタ部分を持ち引き抜く



- ③ 新しい電池パックのケーブルの向きに注意し、本機の電池パック端子に差し込む



4 電池パックを中に入れる



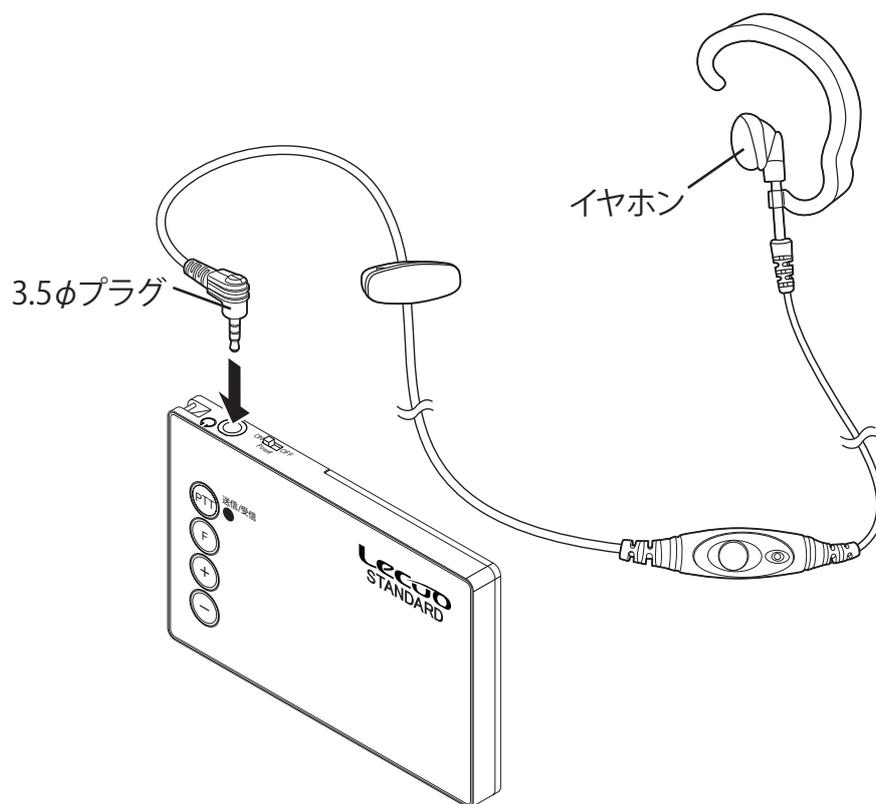
5 電池パックのケーブルを挟まないように注意し、電池ケース蓋を取り付ける

⚠ 注意

- 電池パックのケーブルを持って、抜き挿しするとケーブルが断線し、感電や火災の原因となることがあります。
- 電池パックのケーブルが電池ケース蓋に挟まれますと、ケーブルが断線し、感電や火災の原因となることがあります。

イヤホンマイクを取り付けるには

- 1 3.5φプラグをイヤホンマイク/USBケーブル接続端子に接続する

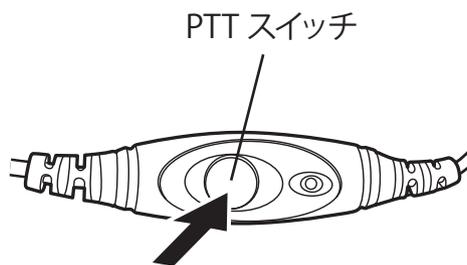


- 2 イヤホンを耳に装着する

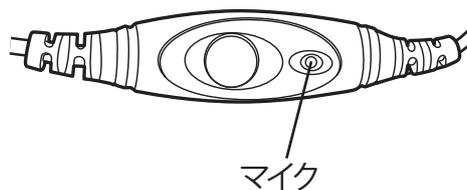
イヤホンマイクの使い方

① PTTスイッチを押す

- PTTスイッチが押されている間は送信します。



② マイクと口元の距離を5～6cm程度にして、ゆっくりと明瞭に話す



アドバイス

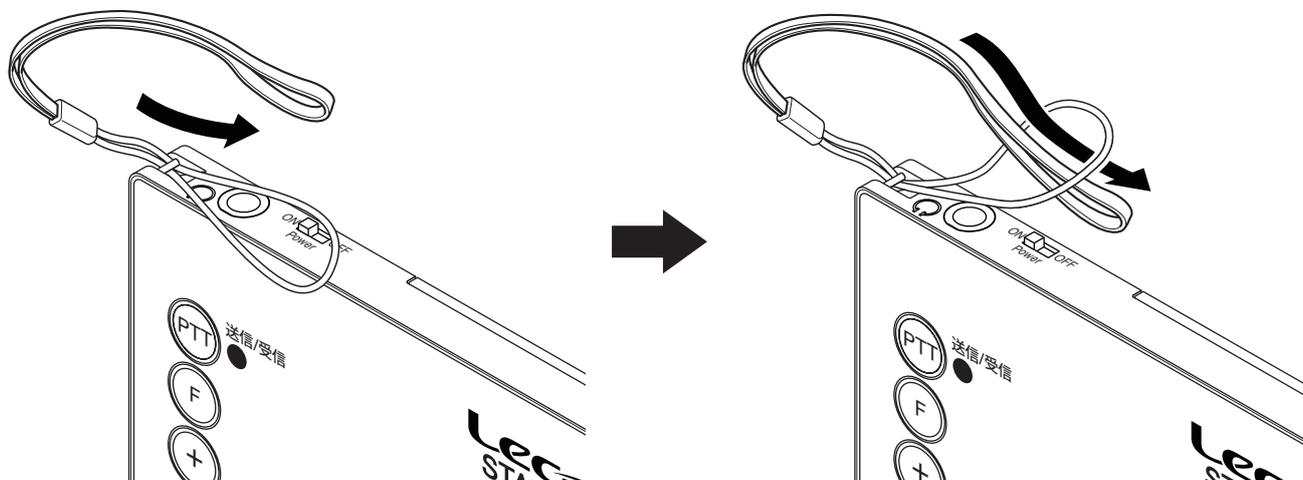
- イヤホンマイクのマイクは無指向性です。そのため、マイクの向きを気にせずにお話ししていただくことができます。

ストラップを取り付けるには

ストラップ※を本機のストラップホルダーに取り付けることができます。

※ストラップは付属されていません。

① 下図のように、市販のストラップをストラップホルダーに取り付ける



📄 お願い

- 本機の表ケースと裏ケースはアンテナ構造になっています。ストラップホルダーにストラップを取り付ける際、金属性のもので固定させると通話をする際ノイズが発生しやすくなります。上図のようなヒモ式の物で固定させてください。

基本操作

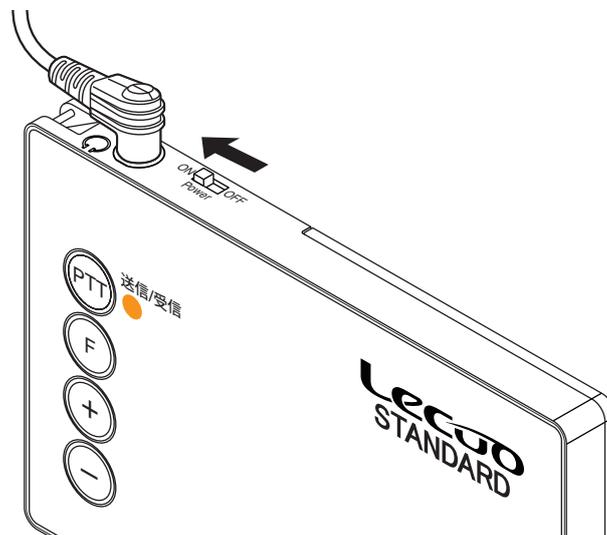
電源の入切

⚠ 注意

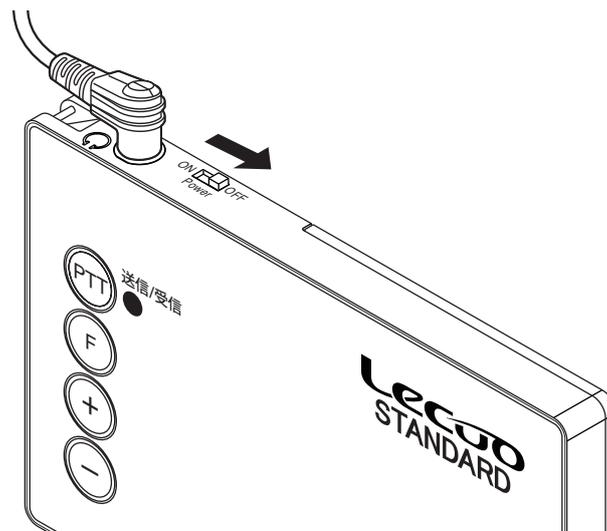
- ご購入後、初めて電源を入れる前には、イヤホンマイクのボリューム調整は最小になっています。ご使用になる際は、音量の調節をしてください。

① 電源を入れるには、電源スイッチをON側にスライドする

- ランプが橙色に点灯します。
- イヤホンマイクが接続されているときは、イヤホンマイクのイヤホンより音声ガイドが聞こえます。

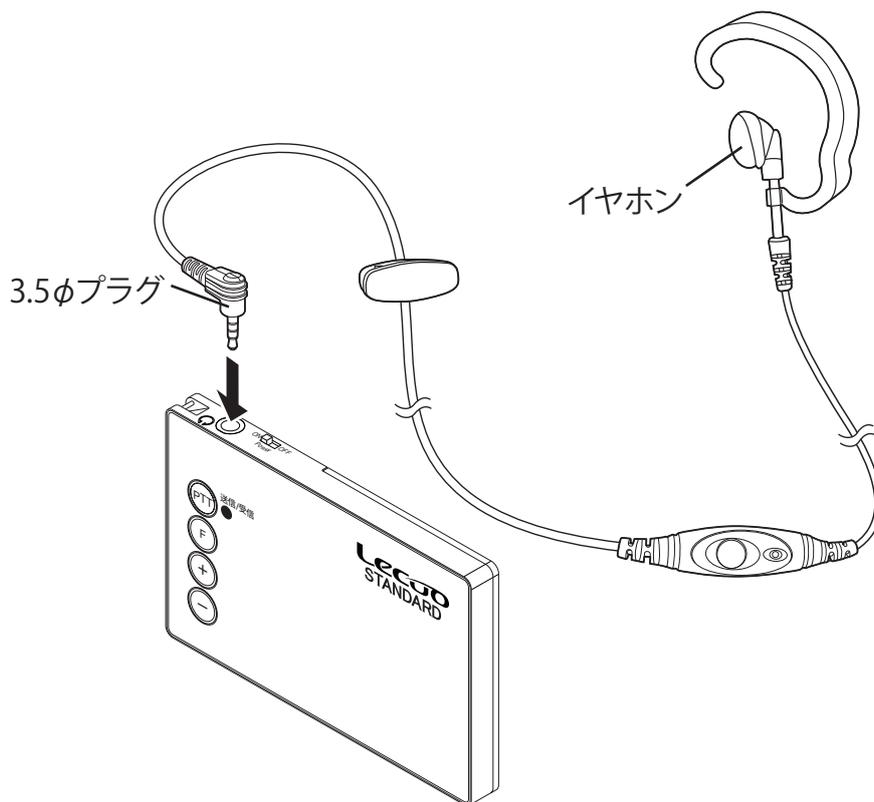


② 電源を切るには、電源スイッチをOFF側にスライドする

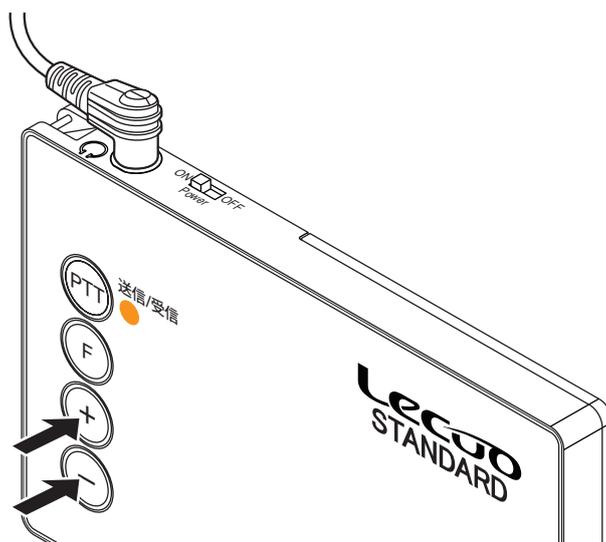


音量の調節

- 1 3.5φプラグをイヤホンマイク/USBケーブル接続端子に接続する



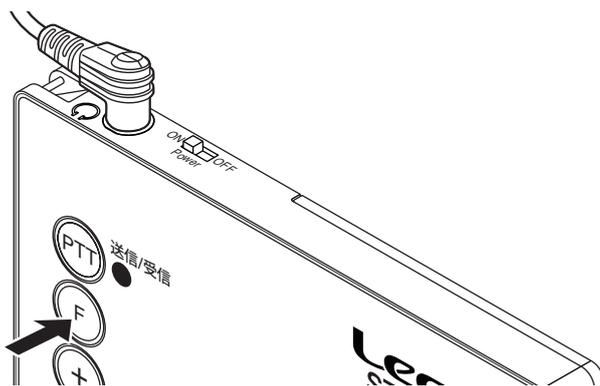
- 2 イヤホンを耳に装着する
- 3 電源スイッチをON側にスライドして、電源を入れる
- 4 音量を調整するには、[+]または[-]ボタンを押す



- 音量は5段階で切り替えることができます。
- ボタンを押す毎に、「カッ」という音が鳴ります。音量が最大または最小になると「ポーン」という音が鳴ります。

チャンネルを合わせるには

- 1 [F] ボタンを「カッ」という音が鳴るまで長押し (約 2 秒) する

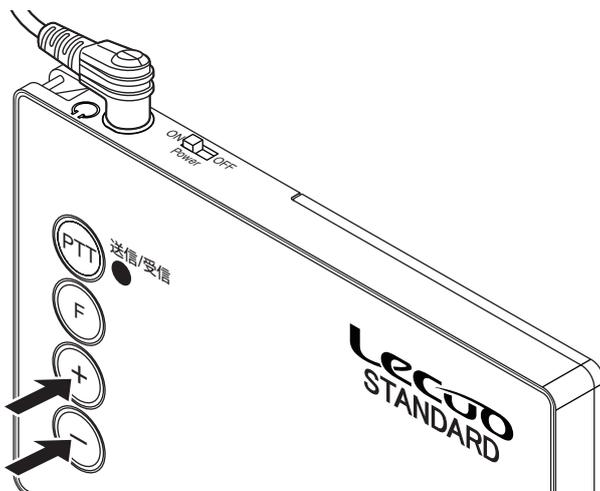


- 音声ガイドで案内します。(音声ガイドの例 (初期値) : 「チャンネルを選んでください」)
- チャンネル設定を変更できるようになります。

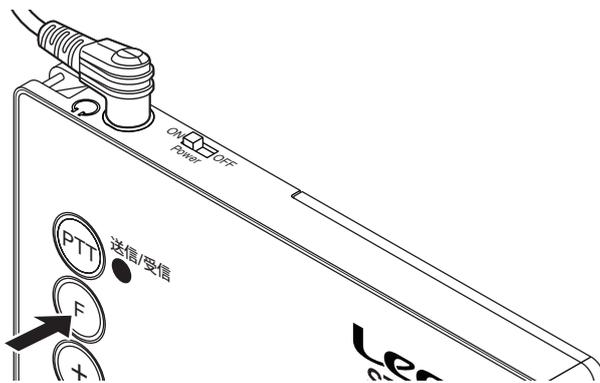
アドバイス

- 通常はチャンネル設定が、設定変更モード1になっています。
- 設定変更モード1の変更できる内容はパソコンを使って設定できます。「設定変更モード1、2」(P.75)を参照してください。

- 2 [+] または [-] ボタンを押して、チャンネルを切り替える



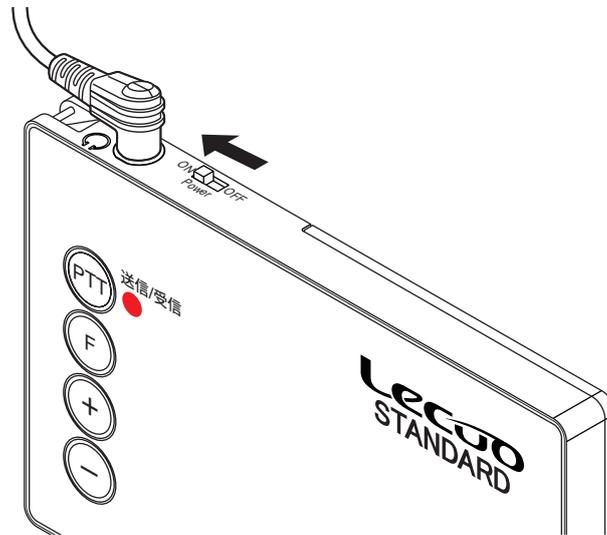
- 3 [F] ボタンを押す



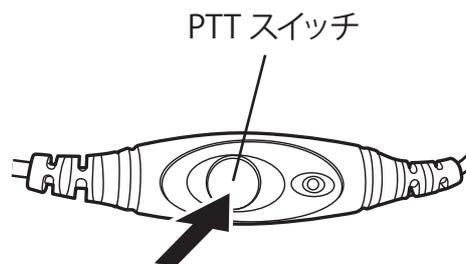
- 「カッ」という音が鳴った後に、変更した内容を音声ガイドで案内します。
- その後、電源スイッチをOFF側にスライドして電源を切ってください

送信するには

- 1 イヤホンマイクを装着する
- 2 電源スイッチをON側にスライドして、電源を入れる



- 3 本機の [PTT] ボタンまたはイヤホンマイクのPTTスイッチを押す



- 送信するとランプが赤色に点灯します。
- 他の人が同じチャンネルを先に使っているときは送信はできません。このときに [PTT] ボタンまたは PTT スイッチを押すと「ピッピッピッ」という警告音が鳴ります

- 4 イヤホンマイクのマイクに向かってゆっくりと話す

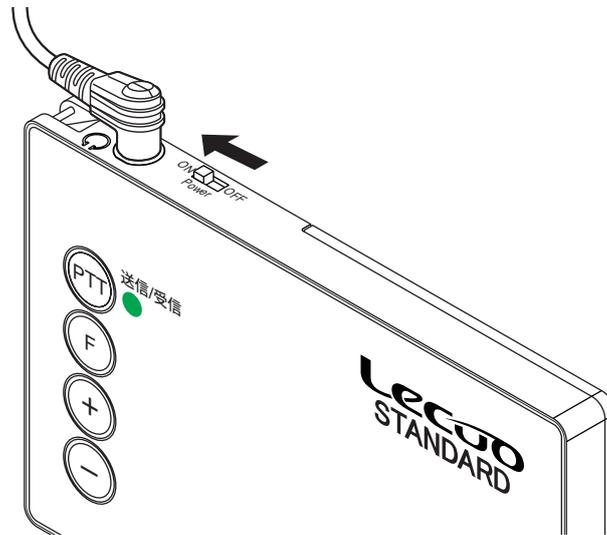
- 中継通話の場合、最初の送信時、中継器（リピータ）を自動的に起動しますので、[PTT] ボタンまたはイヤホンマイクの PTT スイッチを押してから1秒程度間を開けて話してください。一度会話を始めると間隔を開ける必要はありません。
- リピータの電源が入っていない、リピータと設定が合っていないなどの場合は [PTT] ボタンまたはイヤホンマイクの PTT スイッチを押した時点でリピータの応答待ち音（「ピッ・ピッ・ピッ……」）が3秒間鳴った後、無音状態になります。この場合、リピータの電源の確認、使用しているリピータの設定内容の確認を行なってください。

アドバイス

- 通話時間は送信時間、受信時間を含め3分です。
通話時間の合計時間は送信の開始からです。
通話開始後2分50秒経過時に「ピピッ」という警告音が鳴ります。
- 送信中に3分に達した場合は、送信通話音「プーッ」がなった後、2秒間の送信休止時間が自動的に設けられます。
送信休止の時に [PTT] ボタンを押すと「ピッピッピッ」という警告音が鳴ります。
- 送信をやめても2秒以内に再び送信した場合は、連続した送信時間(3分以内)に含まれます。
- 送信も受信もない時間が2秒以上続くと通話終了とみなします。
- 送信保持が設定されている場合 PTT を押し続ける必要はなく、1度押すだけで送信し続ける状態となります。もう1度押すと送信を解除します。

受信するには

- 1 イヤホンマイクを装着する
- 2 電源スイッチをON側にスライドして、電源を入れる



- 3 相手の方が送信するのを待つ
 - 予め設定されているチャンネルで受信ができます。
受信するとランプが緑色に点灯します。

アドバイス

- 本機は、容易に設定内容を変更できなくするために、[F] ボタンにロックを掛けることができます。
[F] ボタン + [PTT] ボタンの長押しを5秒間おこなってください。
「ピッピー」という効果音が鳴り、[F] ボタンがロックされます。
この際、F ボタンを押しても「プップッ」という効果音が鳴り、設定内容を変更できません。
解除する際も、[F] ボタン + [PTT] ボタンの長押しを5秒間おこなってください。

これ以降の操作は、特に断りの無い限り、イヤホンマイクが装着され、電源が入り、音量も調整されている状態とします。

通話の種類

本機は「標準通話」と「中継通話」2つの通話形態をもっています。「標準通話」は本機同士で直接通信を行います。「中継通話」はリピータ（中継器）を介して通信を行います。リピータ（中継器）を使うことで、より広い範囲での通話が可能になります。

本機では「標準通話」ではチャンネルを20通り、「中継通話」ではチャンネルを27通りから1つを選ぶことができます。トーンはトーン無しおよび38種類用意されています。

標準通話について

本機同士で直接送信と受信を行って通話を行う方法です。

本機が表のように設定されているときを例として次ページにて説明いたします。

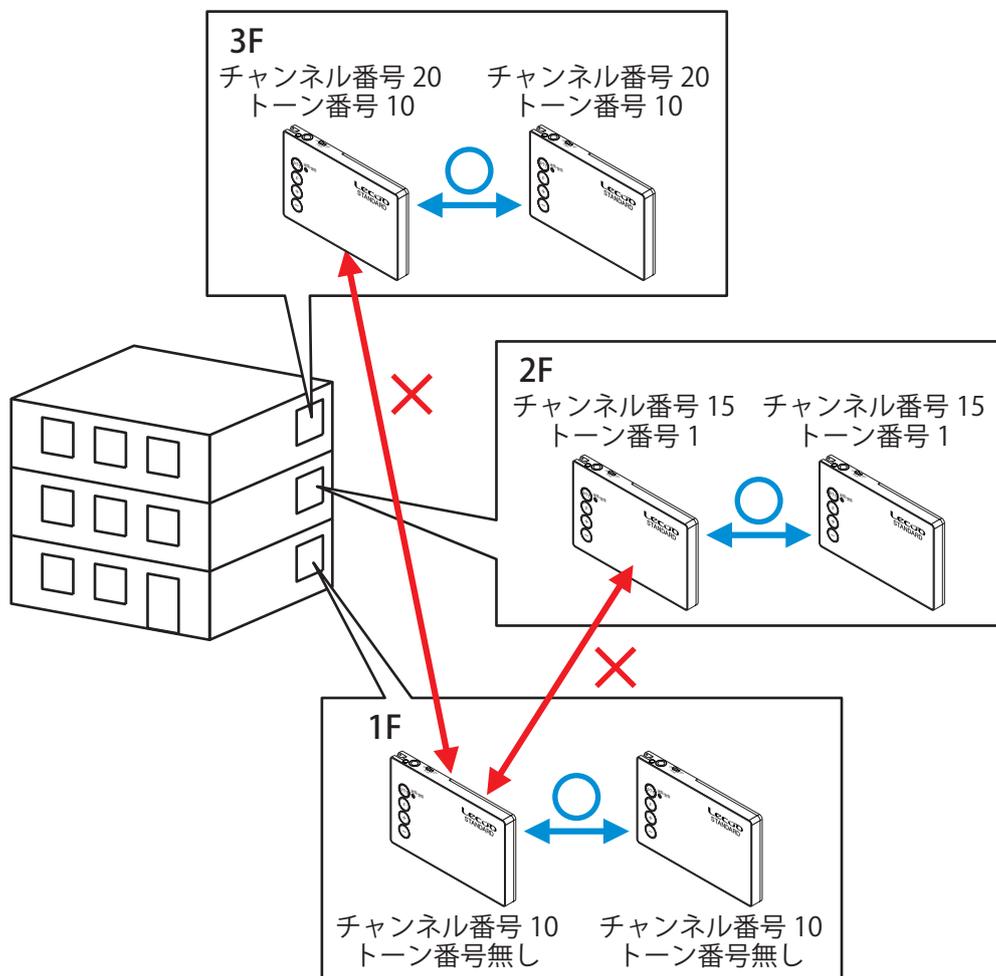
標準通話の設定	
チャンネル番号	トーン番号
10	無し
15	1
20	10

標準通話

- 本機を3つのフロアがある建物で使用する場合、フロア1Fにいる全ての人は、チャンネル番号10、トーン番号無しを選択しておきます。

同様にフロア2Fにいる全ての人は、チャンネル番号15、トーン番号1を選択し、フロア3Fにいる全ての人は、チャンネル番号20、トーン番号10を選択しておきます。

このように設定しておくこととフロアが同じ人と通話ができるようになります。また、他のフロアの人の通話を受信したり、送信してしまうことはありません。



📌 アドバイス

- 工場出荷時は標準通話が設定されています。工場出荷時の設定は「工場出荷設定」(P.81)を参照ください。
- チャンネルの変更は、「チャンネルを合わせるには」(P.29)、「チャンネル設定」(P.68)を参照し設定してください。

中継通話について

本機同士では直接通話を行わず、リピータ（中継器）を介して通信を行います。リピータ（中継器）を使うことで、標準通話より広い範囲での通話が可能になります。

本機が表のように設定されているときを例として次ページにて説明いたします。

リピータ（中継器）の設定		
使用するリピータ（中継器）	チャンネル番号	トーン番号
リピータ1	1	無し
リピータ2	10	1
リピータ3	20	10

- リピータ（中継器）は、それぞれ予めチャンネル番号、トーン番号が設定されていますので、本機も設定を中継器（リピータ）に合わせる必要があります。
- 本機を3ヶ所で使用される場合、各場所にいる人は、それぞれの通話したい人と同じ中継通話設定にします。

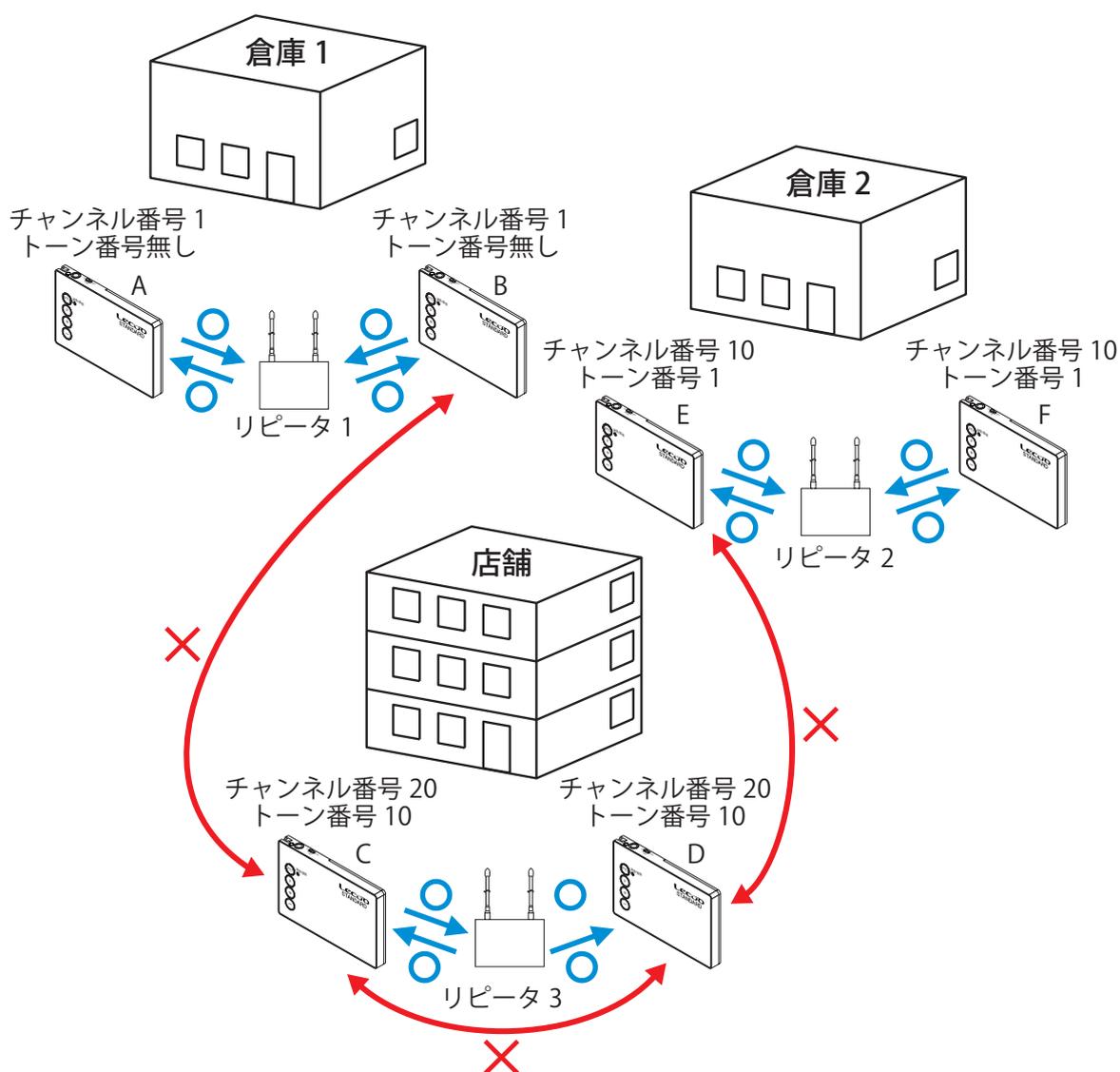
グループ通信

- 例えば「倉庫1」にリピータ1を設置し、「倉庫2」にリピータ2を設置し、「店舗」にリピータ3を設置し、本機を使用して倉庫や店舗にいる人と通話する状況を想定します。

本機を中継通話設定に変更します。

各リピータには予め前ページの表に示すようなチャンネル番号、トーン番号を設定します。

この設定で、その場所にいる人たちは、リピータ(中継器)を介してより広い範囲での通話が可能になります。



また、「倉庫1」のAさんが中継通話のチャンネル番号20トーン番号10に変えることで、離れている「店舗」にいるCさんやDさんと通話することが可能になります。

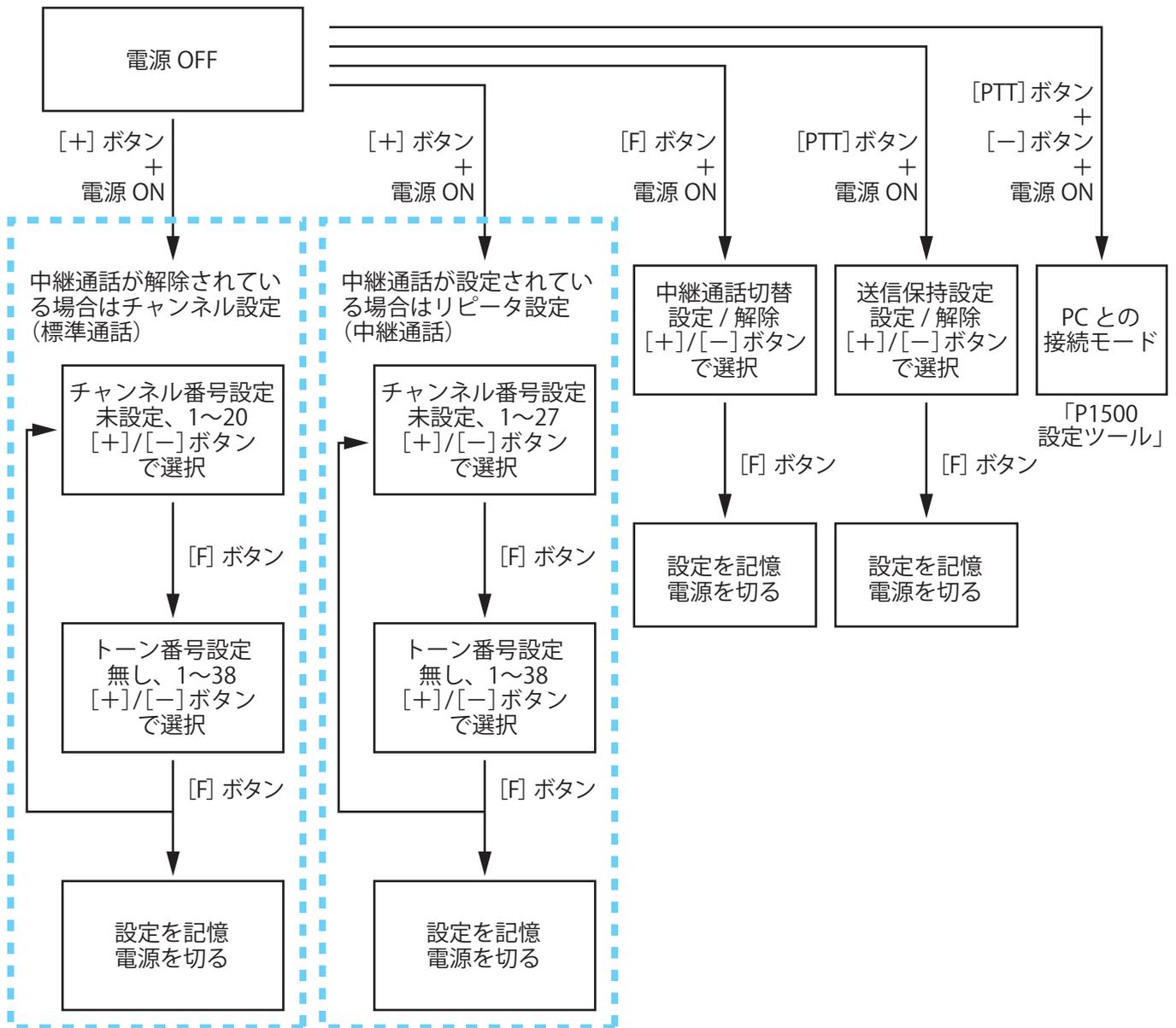
同様に「倉庫1」のAさんが中継通話のチャンネル番号10、トーン番号1に変えることで、離れている「倉庫2」のEさん、Fさんと通信することが可能となります。

アドバイス

- 中継通話の設定を行うには、「標準通話/中継通話切替」(P.38)、「通話機能設定」(P.71) をご覧ください。
- チャンネルの変更は、「チャンネルを合わせるには」(P.29)、「チャンネル設定」(P.68) を参照し設定してください。

標準通話・中継通話の設定

本機を使って標準通話または中継通話のチャンネル番号およびトーン番号が設定できます。「P1500 設定ツール」を用いても設定ができます。



標準通話 / 中継通話切替

本機は予め設定されている標準通話または中継通話を切り替えます。

標準通話または中継通話を変えることで、違った場所の人との通信が可能になります。

アドバイス

- 中継通話を設定されていると、電源を入れた時に「中継通話です」とチャンネル番号とトーン番号を音声ガイドで案内します。中継通話が解除（標準通話）されているとチャンネル番号とトーン番号のみ音声ガイドで案内します。標準通話と中継通話を同時に設定することはできません。
- このモードは設定変更モード1に設定することもできます。「設定変更モード1、2」(P.75) を参照してください。

- ① [F] ボタンを押しながら電源スイッチをON側にスライドして、電源を入れる
 - 「中継通話切り替えです」と現在の設定状態を音声ガイドで案内します。
 - 音声ガイドの案内中は設定を切り替えることはできません。
- ② [+] または [-] ボタンを押して、「解除」または「設定」を選ぶ
 - 標準通話が選ばれると「解除」と音声ガイドで案内します。
 - 中継通話を選ばれると「設定」と音声ガイドで案内します。
- ③ [F] ボタンを押す
 - 「カッ」という音と「設定を記憶しました」と音声ガイドで案内します。
 - これで設定が変更されました。
- ④ 設定を終わるには、電源スイッチをOFF側にスライドして、電源を切る

標準通話のチャンネル番号・トーン番号設定

本機を使って標準通話に設定するチャンネル番号とトーン番号が設定できます。

- パソコンで設定する際は、P1500設定ツールを使用してください。「チャンネル設定」(P.68)を参照ください。
- 現在設定している内容を確認するには、[F] ボタンを一度押してください。

アドバイス

- 標準通話の設定を行うには、中継通話切替が解除されている必要があります。
- 中継通話を解除するには、「標準通話/中継通話切替」(P.38)または「通話機能設定」(P.71)を参照し設定してください。

- ① 電源スイッチをOFF側にスライドして、電源を切る
- ② [+] ボタンを押しながら電源スイッチをON側にスライドして、電源を入れる
 - 「チャンネルを選んでください」の音声ガイドで案内した後、現在のチャンネルを音声ガイドで案内します。
- ③ [+] または [-] ボタンを押し、設定するチャンネル番号を選ぶ
 - チャンネルは1～20で選べます。
- ④ [F] ボタンを押す
 - 「トーンを選んでください」の音声ガイドで案内した後、現在のトーンを音声ガイドで案内します。
- ⑤ [+] または [-] ボタンを押し、設定するトーン番号を選ぶ
 - トーンは無し、1～38で選べます。
- ⑥ [F] ボタンを押す
 - 「設定を記憶しました」の音声ガイドで案内した後、「チャンネルを選んでください」の音声ガイドで案内した後、現在のチャンネルメモリ番号を音声ガイドで案内します。
- ⑦ 他のチャンネル番号やトーン番号に変更する場合は、手順③から行う
- ⑧ 設定を終わるには、電源スイッチをOFF側にスライドして、電源を切る

中継通話のチャンネル番号・トーン番号設定

本機を使って中継通話に設定するチャンネル番号とトーン番号が設定できます。

- パソコンで設定する際は、P1500設定ツールを使用してください。「リピータ設定」(P.70)を参照ください。
- 現在設定している内容を確認するには、[F] ボタンを一度押してください。

アドバイス

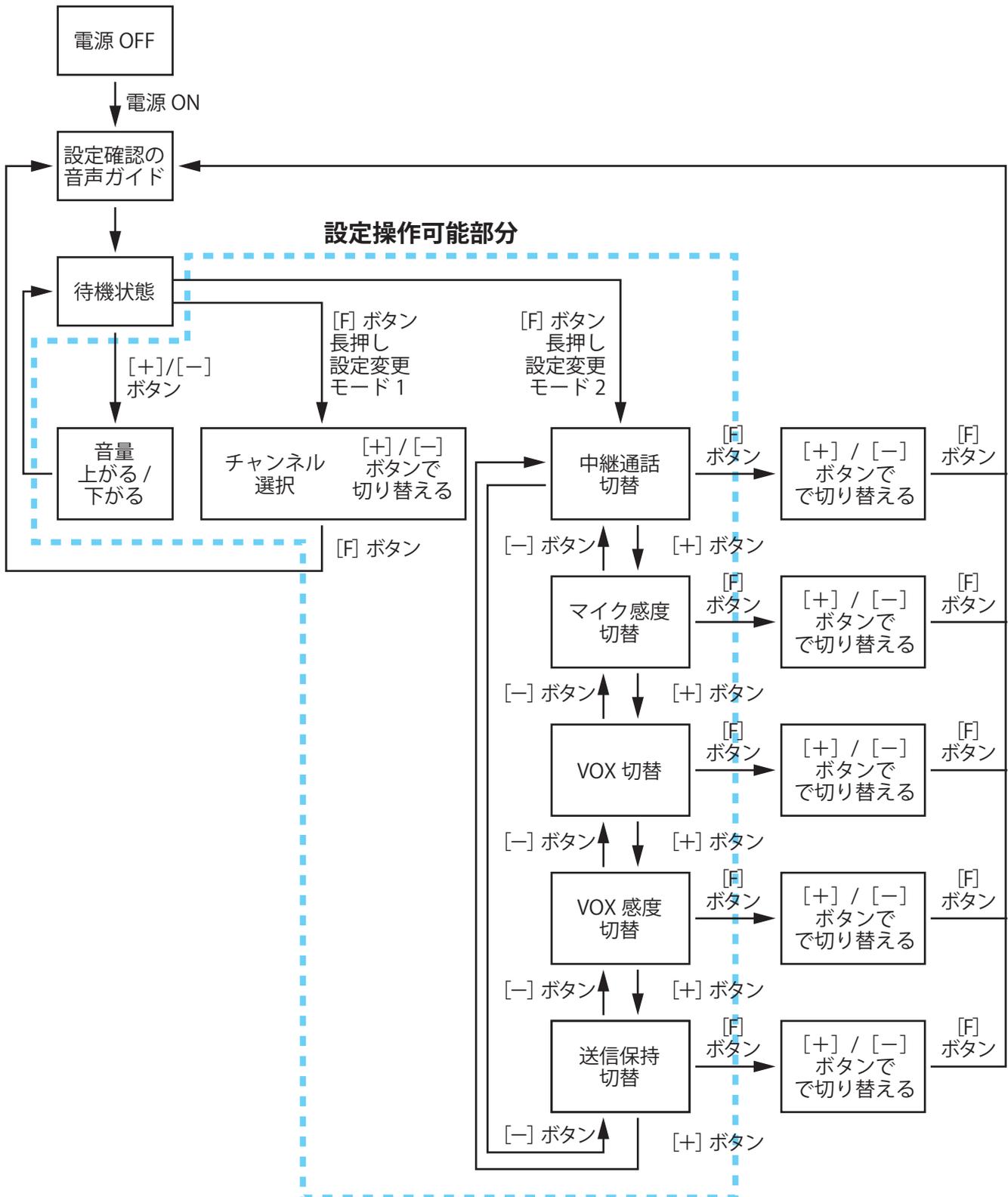
- 中継通話の設定を行うには、中継通話機能が設定されている必要があります。
- 中継通話を設定するには、「標準通話/中継通話切替」(P.38)または「通話機能設定」(P.71)を参照し設定してください。

- ① 電源スイッチをOFF側にスライドして、電源を切る
- ② [+] ボタンを押しながら電源スイッチをON側にスライドして、電源を入れる
 - 「リピータ設定です。チャンネルを選んでください」の音声ガイドで案内した後、現在のチャンネル番号を音声ガイドで案内します。
- ③ [+] または [-] ボタンを押し、設定するチャンネル番号を選ぶ
 - チャンネルは1～27で選べます。
- ④ [F] ボタンを押す
 - 「トーンを選んでください」の音声ガイドで案内した後、現在のトーンを音声ガイドで案内します。
- ⑤ [+] または [-] ボタンを押し、設定するトーン番号を選ぶ
 - トーンはなし、1～38で選べます。
- ⑥ [F] ボタンを押す
 - 「設定を記憶しました」の音声ガイドで案内した後、「チャンネルを選んでください」の音声ガイドで案内した後、現在のチャンネル番号を音声ガイドで案内します。
- ⑦ 他のチャンネル番号やトーン番号に変更する場合は、手順③から行う
- ⑧ 設定を終わるには、電源スイッチをOFF側にスライドして、電源を切る

応用操作

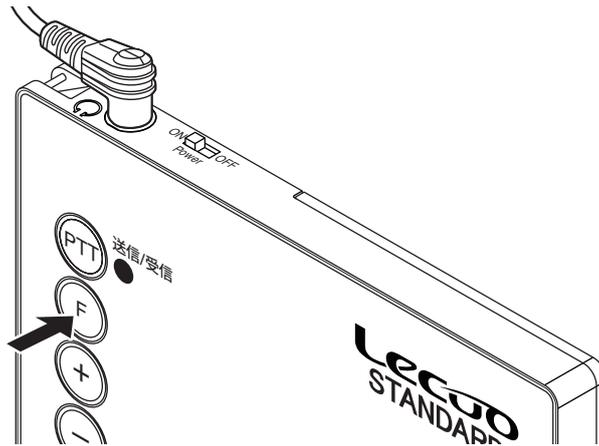
設定項目の選択と変更

予め項目が設定されているときに、それらの設定内容を本機で変更することができます。変更できる項目は設定変更モード1、設定変更モード2に設定されています。設定変更モード1では1種類、設定変更モード2では5種類まで設定することができます。



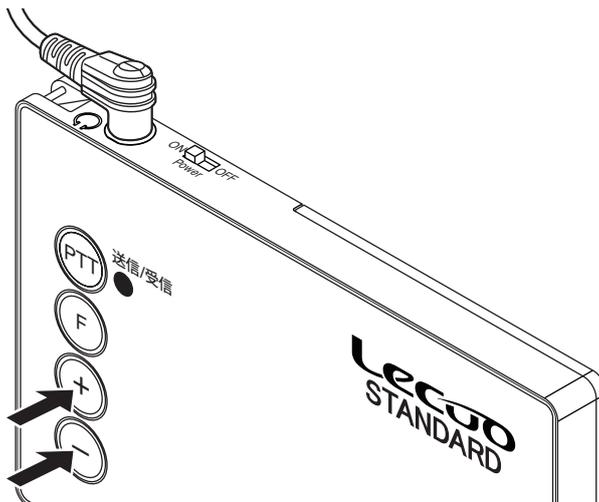
チャンネル設定を変更（設定変更モード1）

- ① [F] ボタンを「カッ」という音が鳴るまで長押し（約2秒）する

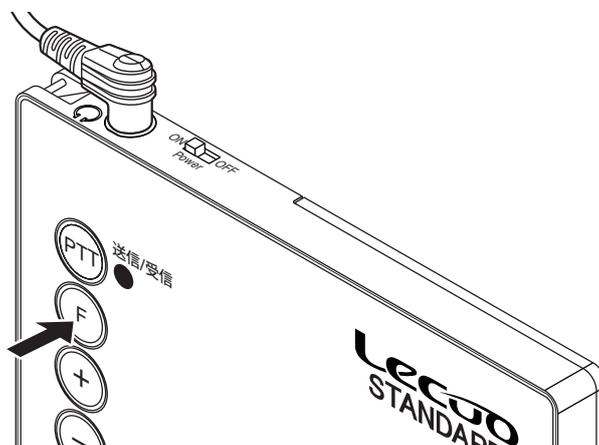


- 音声ガイドで案内します。（音声ガイドの例（初期値）：「チャンネルを選んでください」）
- チャンネル設定を変更できるようになります。
- 通常はチャンネル設定が、設定変更モード1になっています。
この設定変更モード1に設定されているチャンネル設定を他の設定内容に割り当てることもできます。

- ② [+] または [-] ボタンを押して、チャンネルを切り替える



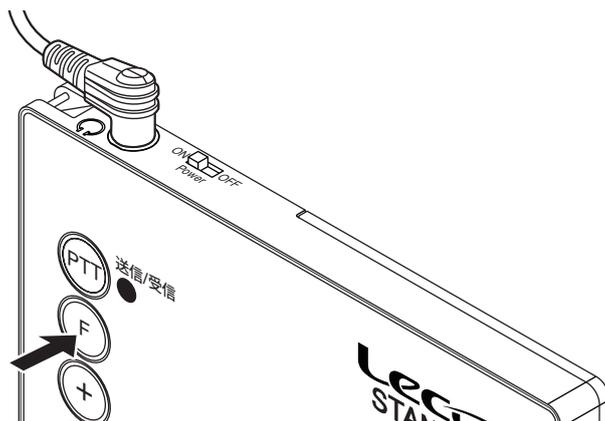
- ③ [F] ボタンを押す



- 「カッ」という音が鳴った後に、変更した内容を音声ガイドで案内します。
- その後、電源スイッチをOFF側にスライドして電源を切ってください。

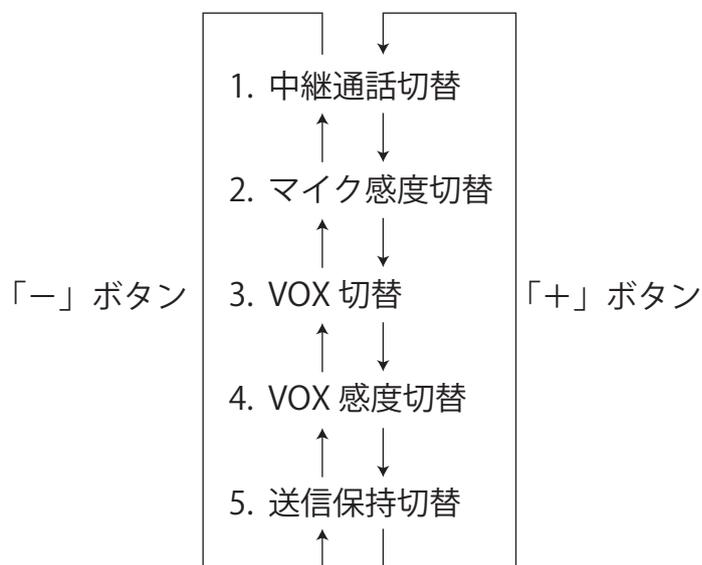
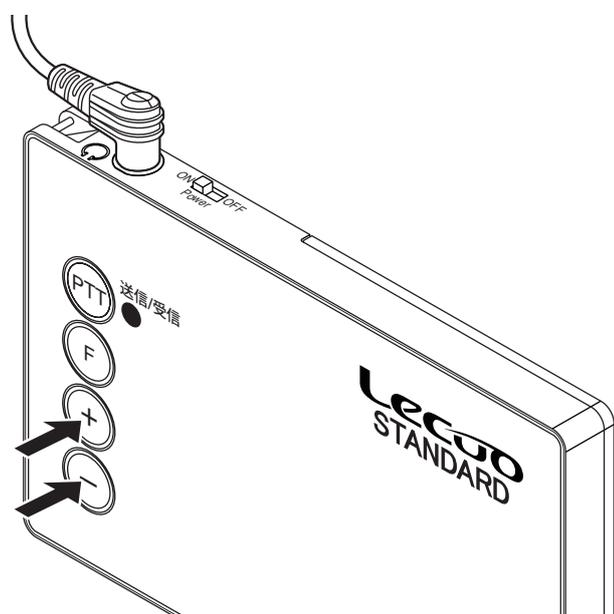
設定変更モードで設定を変更（設定変更モード2）

- ① [F] ボタンを「カッ」という音が2回鳴るまで長押し（約5秒）する。



- 設定変更モードになり、「設定項目を選んでください」に続いて変更できる内容を音声ガイドで案内します。

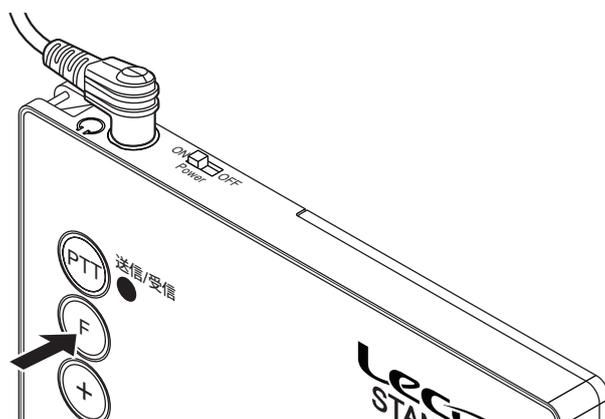
- ② [+] または [-] ボタンを押して、設定*項目を選択する



※この設定は初期状態です。

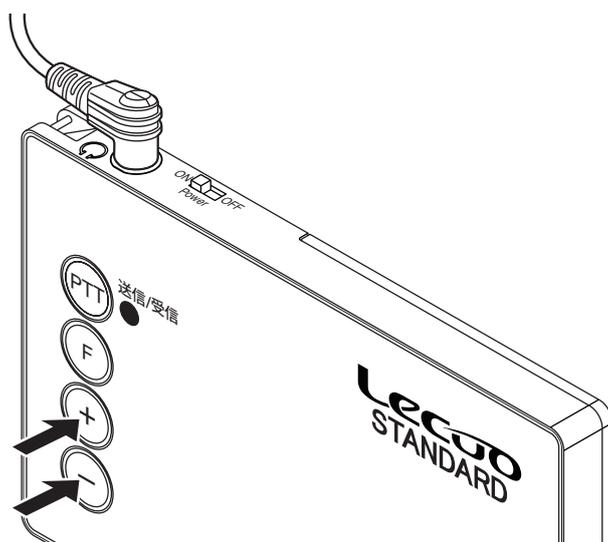
- 通常は右の表での設定項目が、設定変更モード2に割り当てられています。
これら設定変更モード2に設定されている設定内容を他の設定に割り当てることもできます。

- ③ [F] ボタンを押す

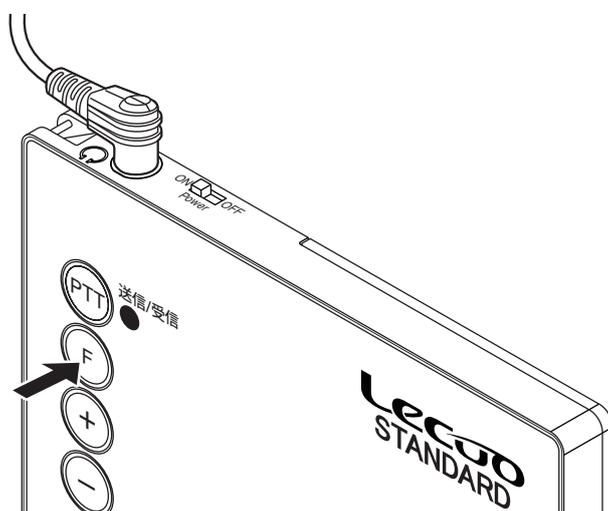


- 「カッ」という音が鳴った後に、現在の設定内容を音声ガイドで案内します。

4 [+]または[-] ボタンを押して、設定内容を切り替える



5 [F] ボタンを押す



- 「カッ」という音が鳴った後に、変更した内容を音声ガイドで案内します。
- これで、設定が変更されましたので、そのままお使いいただけます。

 **アドバイス**

- 設定変更モード1、設定変更モード2の変更できる内容はパソコンを使って設定できます。「設定変更モード1、2」(P.75)を参照してください。

中継通話切替

中継通話の設定で標準通話と中継通話のどちらを使うかを切り替えます。中継通話が設定されると中継通話になります。中継通話が解除されると標準通話になります。

- ① 設定変更モード2の「中継通話切替」を選ぶ
 - 「中継通話切替」が選ばれると「**中継通話切り替えです**」と音声ガイドで案内します。
- ② [F] ボタンを押す
 - 現在の設定内容が音声ガイドで案内されます。
- ③ [+] または [-] ボタンを押し「設定」または「解除」を選ぶ
 - 「設定」を選ぶと中継通話になります。
 - 「解除」を選ぶと標準通話になります。
- ④ [F] ボタンを押す
 - 「**カッ**」という音と「**設定を記憶しました**」の音声ガイドの後に、変更した内容を音声ガイドで案内します。
 - これで設定が変更されましたので、そのままお使いいただけます。

アドバイス

- このモードは設定変更モード1に割り当てすることもできます。「設定変更モード1、2」(P.75) を参照してください。

マイク感度切替

マイク感度切替を行うと、お使いの環境に合わせてイヤホンマイクのマイク感度を変更することができます。

- ① 設定変更モード2の「マイク感度切替」を選ぶ
 - 「マイク感度切替」が選ばれると「**マイク感度切り替えです**」と音声ガイドで案内します。
- ② [F] ボタンを押す
 - 現在の設定内容が音声ガイドで案内されます。
- ③ [+] または [-] ボタンを押し「高」または「低」を選ぶ
 - 選択したマイク感度が音声ガイドで案内されます。
- ④ [F] ボタンを押す
 - 「**カッ**」という音と「**設定を記憶しました**」の音声ガイドの後に、変更した内容を音声ガイドで案内します。
 - これで、設定が変更されましたので、そのままお使いいただけます。

アドバイス

- マイク感度は通常「低」を設定することをお勧めします。「高」にすると大幅に感度が上がる*ためノイズを拾いやすくなります。
※「高」にするとマイク感度は20dB高くなります。
- このモードは設定変更モード1に割り当てすることもできます。「設定変更モード1、2」(P.75) を参照してください。

VOX 機能設定

「VOX (ボックス) 機能」を使うと音声に反応して自動的に送信します。従って [PTT] ボタンや PTT スイッチを押さずにハンズフリーでの送信が可能になります。

- ① 設定変更モード2の「VOX切替」を選ぶ
 - 「VOX切替」が選ばれると「VOX切り替えです」と音声ガイドで案内します。
- ② [F] ボタンを押す
 - 現在の設定内容が音声ガイドで案内されます。
- ③ [+] または [-] ボタンを押し「設定」を選ぶ
 - 「解除」を選ぶと「VOX機能」は働きません。
- ④ [F] ボタンを押す
 - 「カッ」という音と「設定を記憶しました」の音声ガイドの後に、変更した内容を音声ガイドで案内します。
 - これで、設定が変更されましたので、そのままお使いいただけます。

アドバイス

- 送信保持機能が「設定」状態になっている場合、VOX機能は無効になります。
- VOX機能を使用する場合、マイク感度切替は「低」を設定することをお勧めします。
- このモードは設定変更モード1に割り当てられることもできます。「設定変更モード1、2」(P.75) を参照してください。

VOX 感度切替

VOXの感度を切り替えることができます。感度は1～5*まであり、感度の値が大きいほど小さな声に反応し送信するようになります。

※VOX感度：1 (低) ↔ 5 (高)

- ① 設定変更モード2の「VOX感度切替」を選ぶ
 - 「VOX感度切替」が選ばれると「VOX感度切り替えです」と音声ガイドで案内します。
- ② [F] ボタンを押す
 - 現在の設定内容が音声ガイドで案内されます。
- ③ [+] または [-] ボタンを押し感度を替える
- ④ イヤホンマイクのマイクに向かって話しかけ、ランプが赤色に点灯することを確認する
 - ランプが赤色に点灯することを確認することで、実際の感度を確認することができます。
 - マイクは実際に使う位置に取り付けておいてください。
 - ランプが赤く点灯しない場合は、手順③に戻って、VOX感度をより大きな値にしてください。
- ⑤ [F] ボタンを押す
 - 「カッ」という音と「設定を記憶しました」の音声ガイドの後に、変更した内容を音声ガイドで案内します。
 - これで、設定が変更されましたので、そのままお使いいただけます。

アドバイス

- 送信保持機能が「設定」状態になっている場合、VOX機能は無効になります。
- 感度を高くすると通常の会話でも送信してしまう可能性がありますので実際に使用してみて感度の確認を行なってください。
- 手順④においてランプが赤色に点灯しても送信は行っておりません。
- このモードは設定変更モード1に割り当てられることもできます。「設定変更モード1、2」(P.75)を参照してください。

送信保持切替

送信保持切替を「設定」にすると、[PTT] ボタンまたはイヤホンマイクのPTTスイッチを押すと、ボタンから指を離しても送信状態が保持されます。送信を停止するには再度 [PTT] ボタンまたはPTTスイッチを押します。

- ① 設定変更モード2の「送信保持切替」を選ぶ
 - 「送信保持切替」が選ばれると「**送信保持切り替えです**」と音声ガイドで案内します。
- ② [F] ボタンを押す
 - 現在の設定内容が音声ガイドで案内されます。
- ③ [+]**または**[-] ボタンを押して「設定」を選ぶ
 - 「解除」を選ぶと送信保持機能は働きません。
- ④ [F] ボタンを押す
 - 「**カッ**」という音と「**設定を記憶しました**」の音声ガイドの後に、変更した内容を音声ガイドで案内します。
 - これで設定が変更されましたので、そのままお使いいただけます。

アドバイス

- 送信保持機能が「設定」状態になっている場合、VOX機能は無効になります。
- このモードは設定変更モード1に割り当てられることもできます。「設定変更モード1、2」(P.75)を参照してください。

P1500 設定ツールで本機の設定を変更

P1500_ディーラーズマニュアル_CD-ROM内のP1500設定ツールを用いることで、本機の各種設定を変更することができます。同じ設定を複数のP1500に書込むのに適しています。なお、P1500設定ツールでしか設定できない項目もあります。

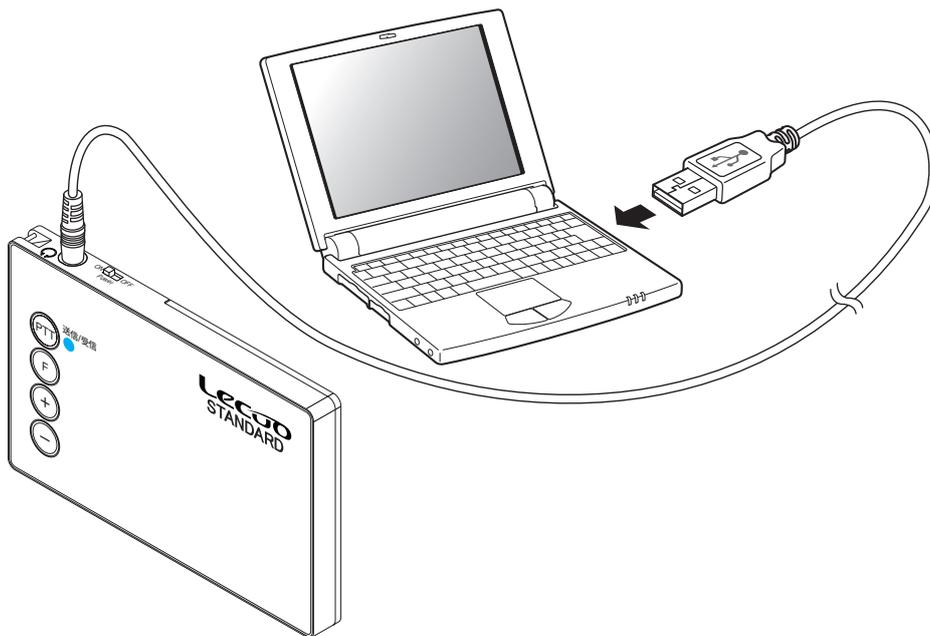
P1500 設定ツールを使用可能な状態にする

P1500 設定ツールを用いて設定を変更する前に、デバイスドライバーをお使いのパソコンにインストールする必要があります。

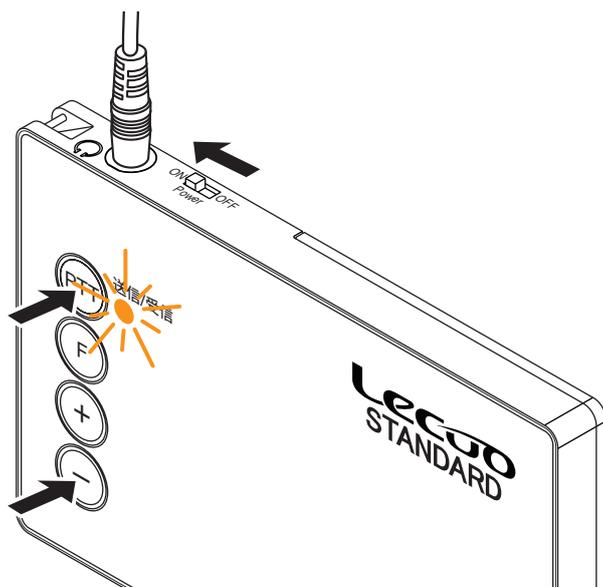
WindowsXP用デバイスドライバーのインストール

この手順は、初めて本機をパソコンに繋いだときに行う手順です。一度この設定を行うと、これ以降は行う必要はありません。

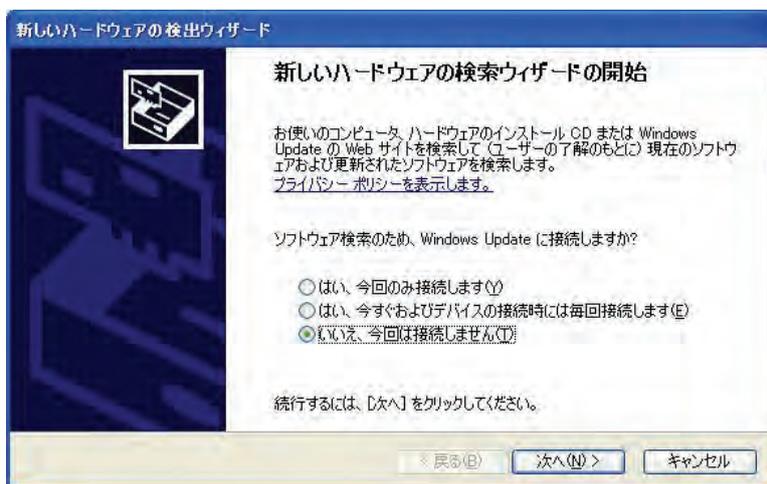
- ① P1500_ディーラーズマニュアル_CD-ROMをCDドライブに挿入する
- ② 本機の電源スイッチをOFF側にスライドして、電源を切る
- ③ パソコンと本機を付属のUSBケーブルで接続する



- 4 [PTT] ボタンと [-] ボタンを押しながら電源スイッチをON側にスライドして、電源を入れる

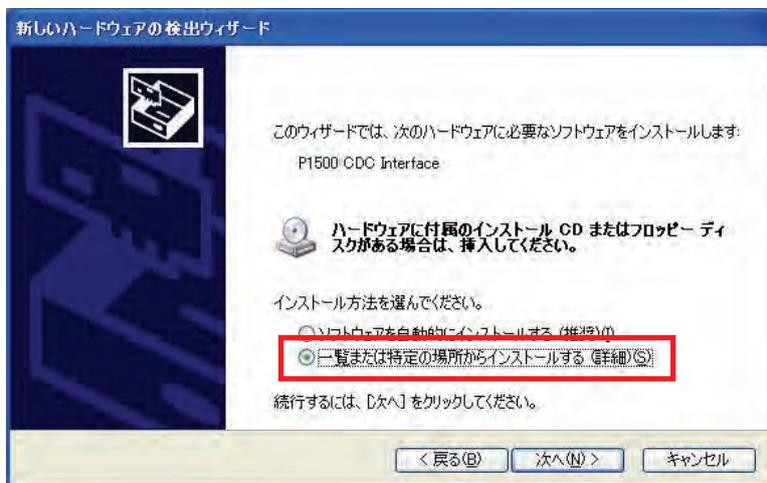


- 無線機とパソコンが正しく接続されると、パソコンに以下の画面が表示されます。

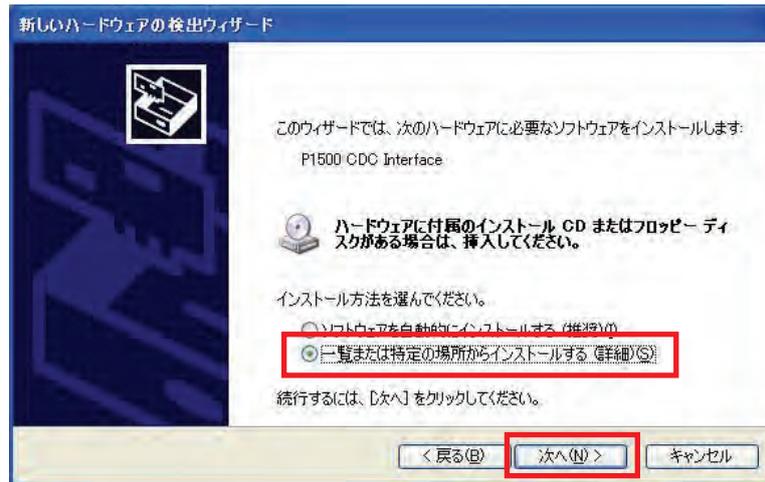


- パソコンやパソコンの設定環境により、画面が表示されるまでに時間が掛かる場合があります。

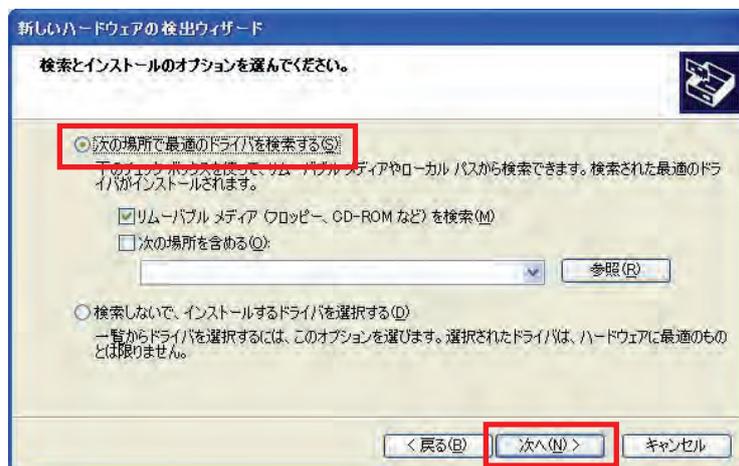
- 5 「いいえ、今回は接続しません」にチェックを入れ「次へ」をクリックする



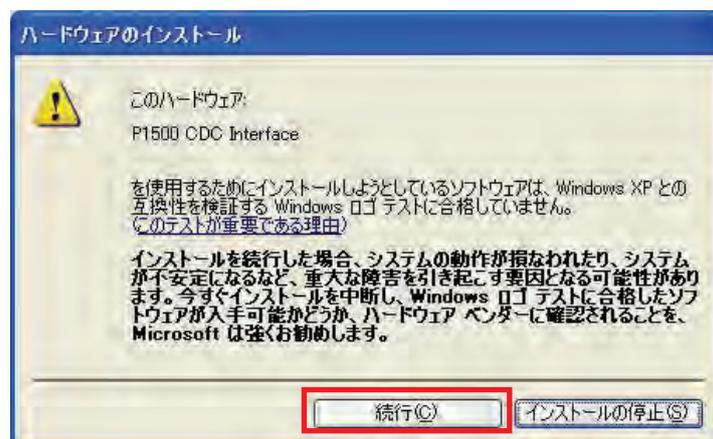
- 6 「一覧または特定の場所からインストールする」にチェックを入れ「次へ」をクリックする



- 7 「次の場所で最適なドライバを検索する」にチェックを入れ「リムーバブルメディアを検索」にチェックが入っていることを確認したら「次へ」をクリックする



- 8 以下の画面が表示されたら、「続行」をクリックする



- 「続行」をクリックすると、以下の画面が出ます。

9 以下の画面が表示されたら、「完了」をクリックする

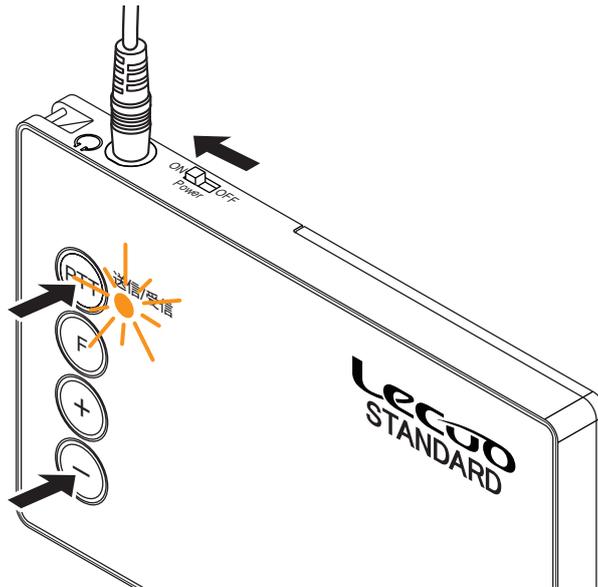


- ドライバーをインストール後に、そのままの状態ですべてのハードウェアを再起動して、本機の設定を行うことも可能です。

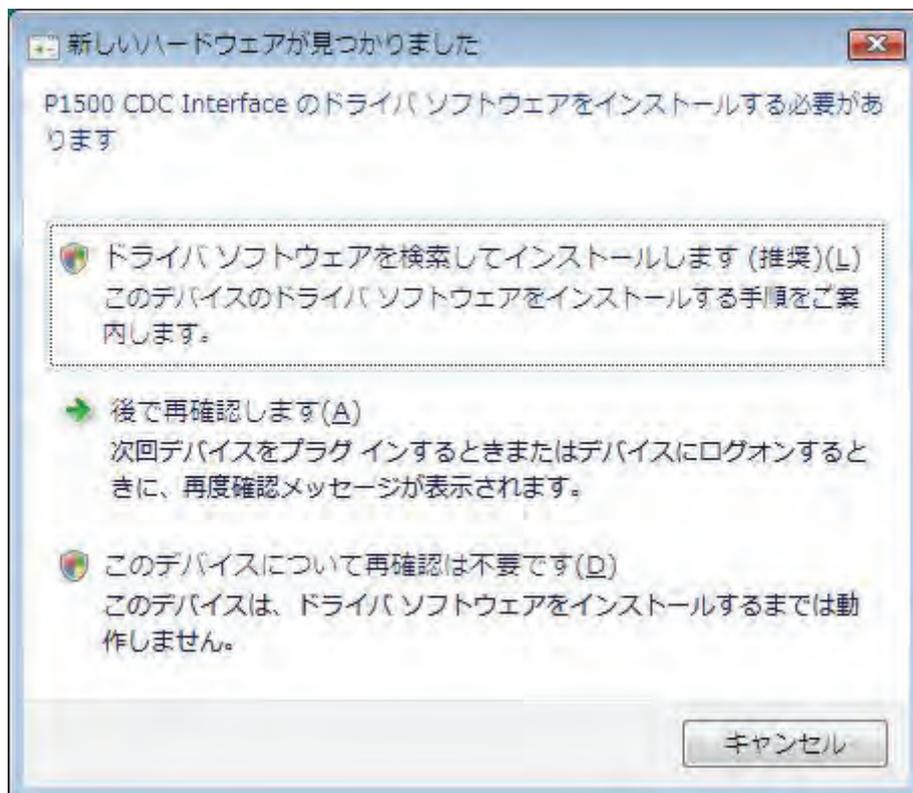
WindowsVista用デバイスのインストール

この手順は、初めて本機をパソコンに繋いだときに行う手順です。一度この設定を行うと、これ以降は行う必要はありません。

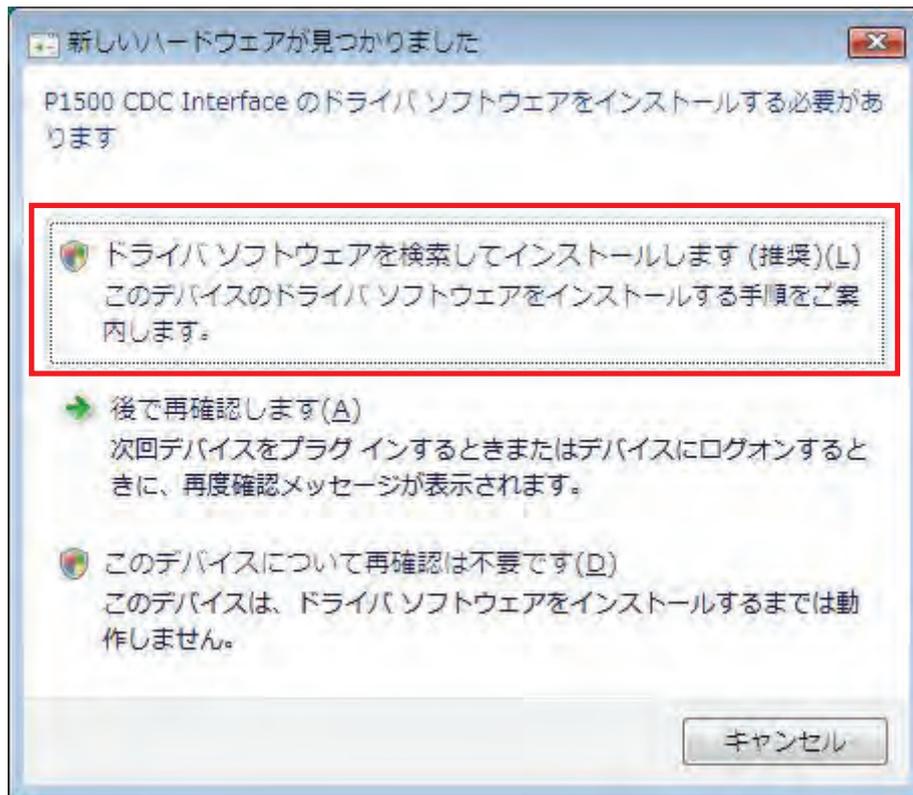
- ① P1500_ディーラーズマニュアル_CD-ROMをCDドライブに挿入する
- ② 本機の電源スイッチをOFF側にスライドして、電源を切る
- ③ パソコンと本機を付属のUSBケーブルで接続する
- ④ [PTT] ボタンと [-] ボタンを押しながら電源スイッチをON側にスライドして、電源を入れる



- 無線機とパソコンが正しく接続されると、パソコンに以下の画面が表示されます。



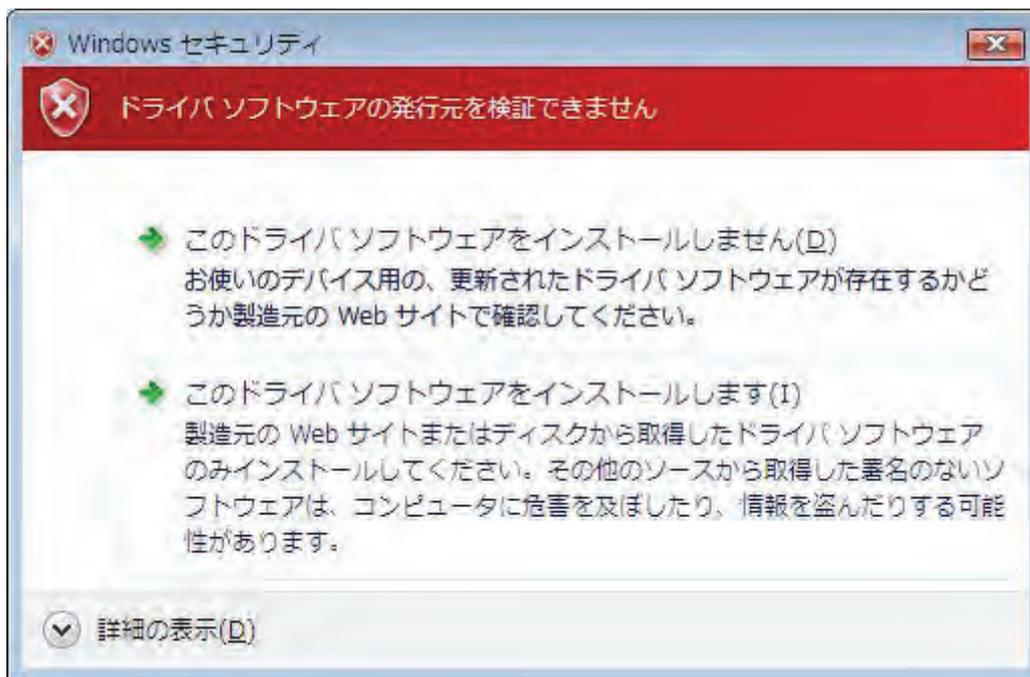
5 「ドライバソフトウェアを検索してインストールします (推奨)」をクリックする



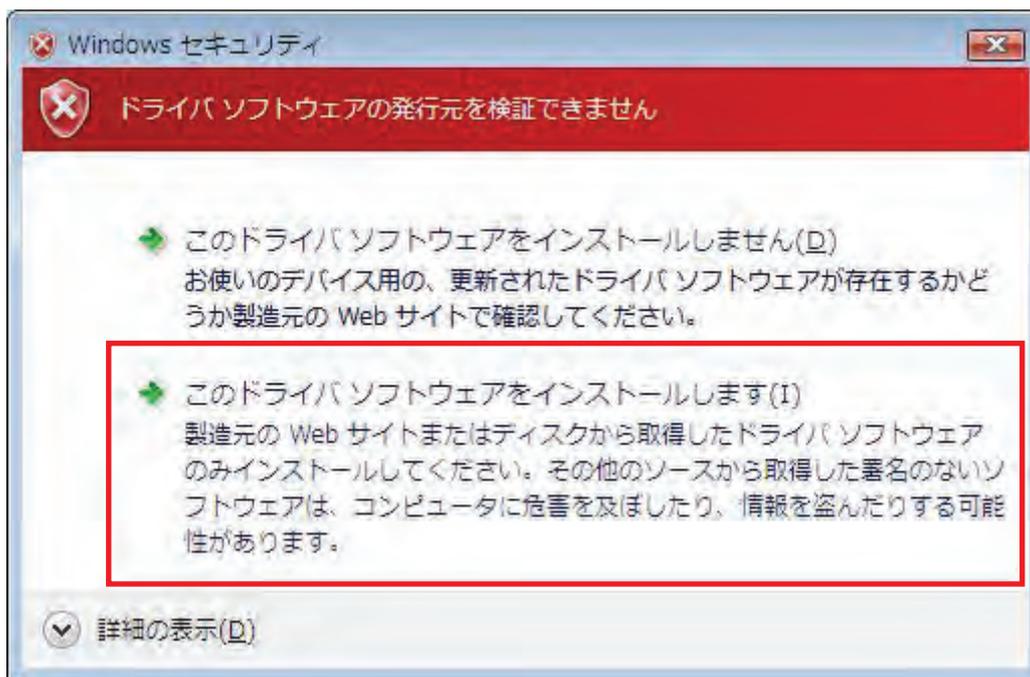
6 以下の画面が表示されたら、CD-ROMをCDドライブに挿入する



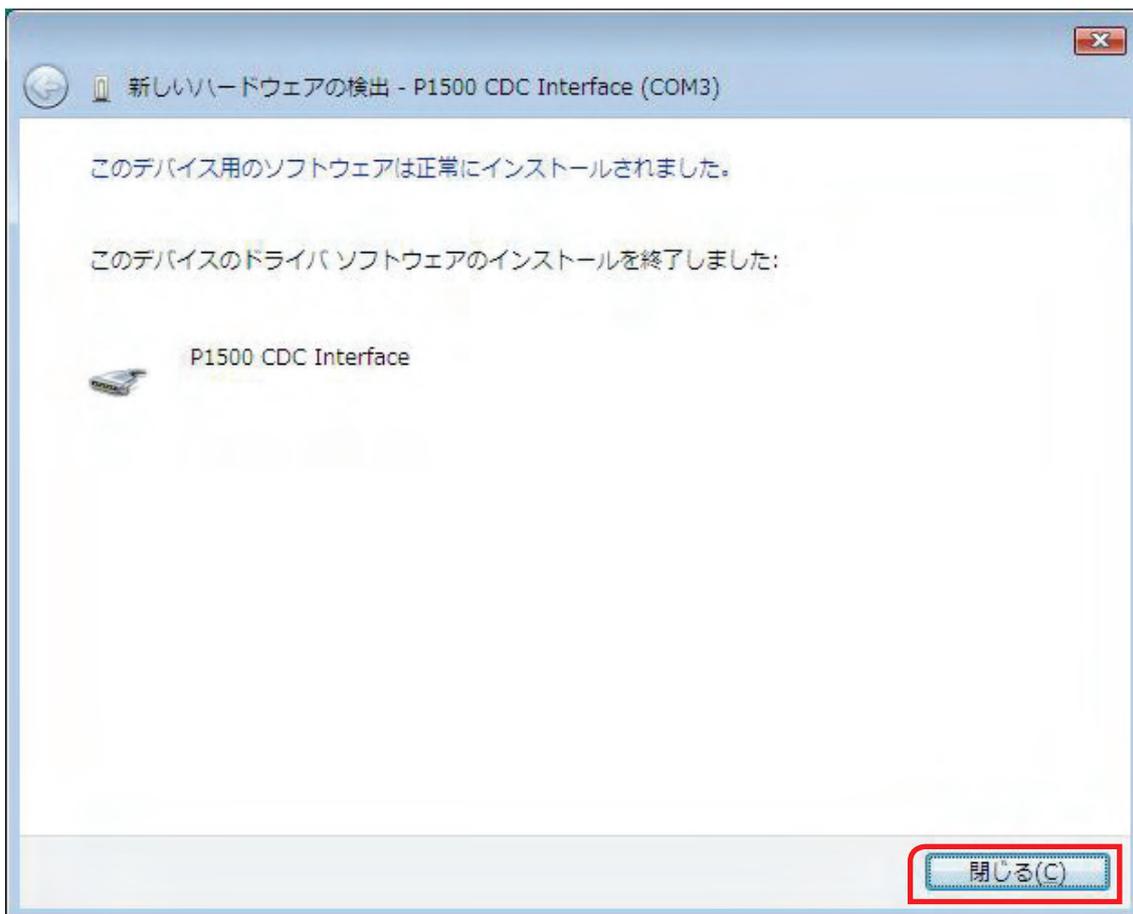
- 以下の画面が表示されます。



7 「このドライバソフトウェアをインストールします」をクリックする



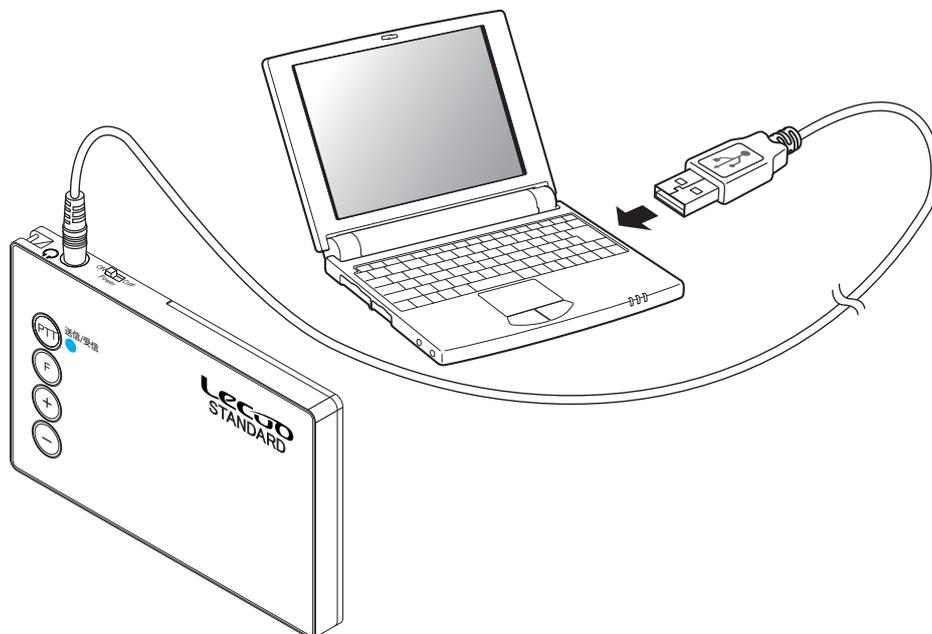
8 以下の画面が表示されたら「閉じる」をクリックする



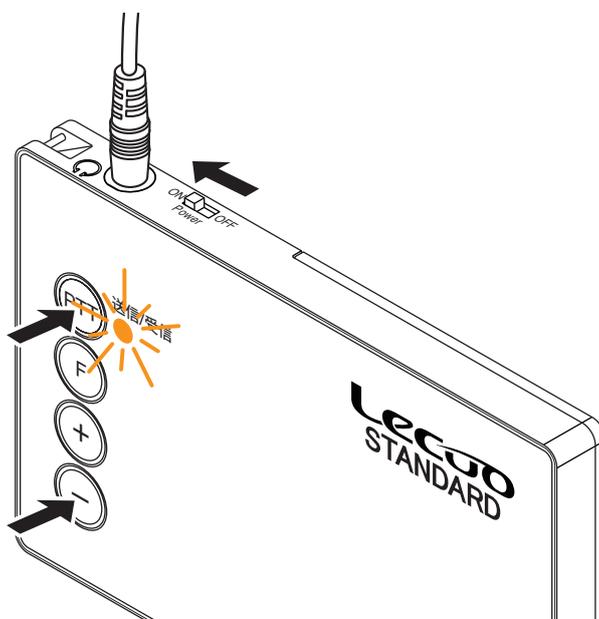
Windows7用デバイスのインストール

この手順は、初めて本機をパソコンに繋いだときに行う手順です。一度この設定を行うと、これ以降は行う必要はありません。

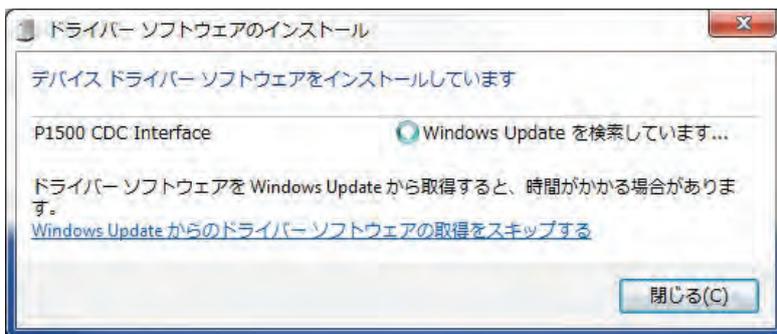
- ① P1500_ディーラーズマニュアル_CD-ROMをCDドライブに挿入する
- ② 本機の電源スイッチをOFF側にスライドして、電源を切る
- ③ パソコンと本機を付属のUSBケーブルで接続する



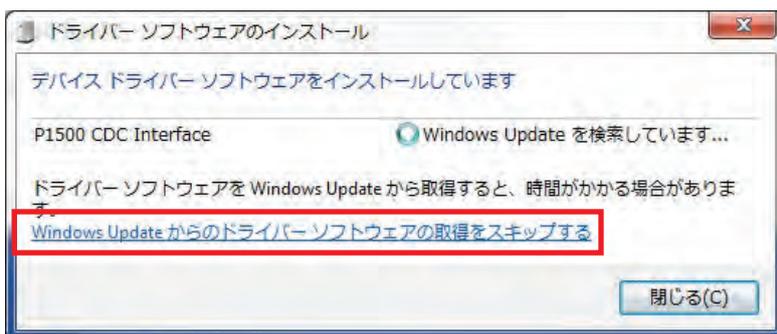
- ④ [PTT] ボタンと [-] ボタンを押しながら電源スイッチをON側にスライドして、電源を入れる



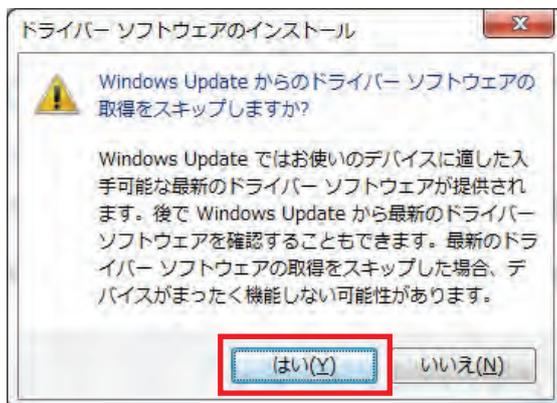
- 無線機とパソコンが正しく接続されると、パソコンに以下の画面が表示されます。



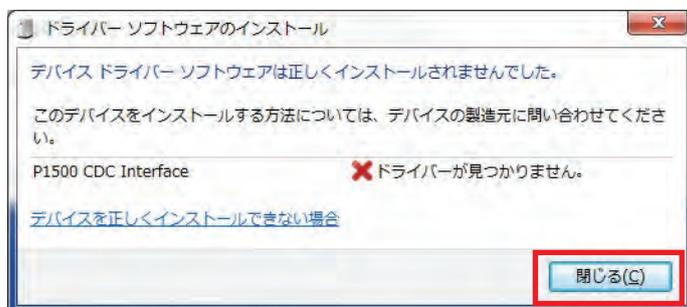
- 5 「Windows Update からのドライバーソフトウェアの取得をスキップする」をクリックする



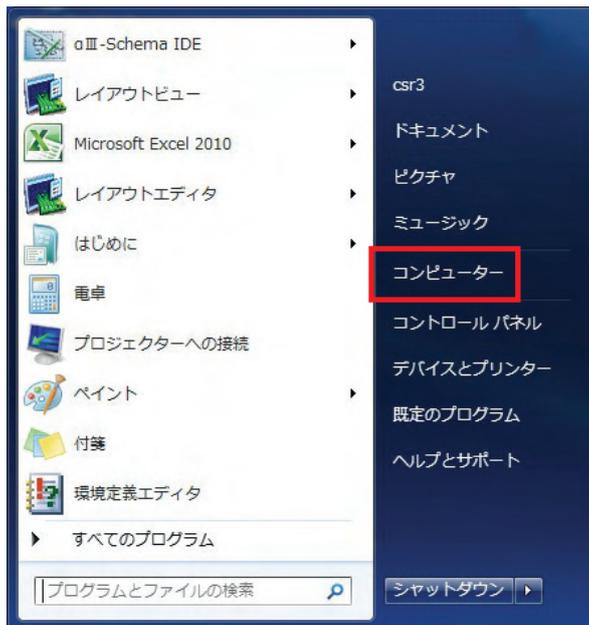
- 6 以下の画面が表示されたら、「はい」をクリックする



- 7 以下の画面が表示されたら、「閉じる」をクリックする



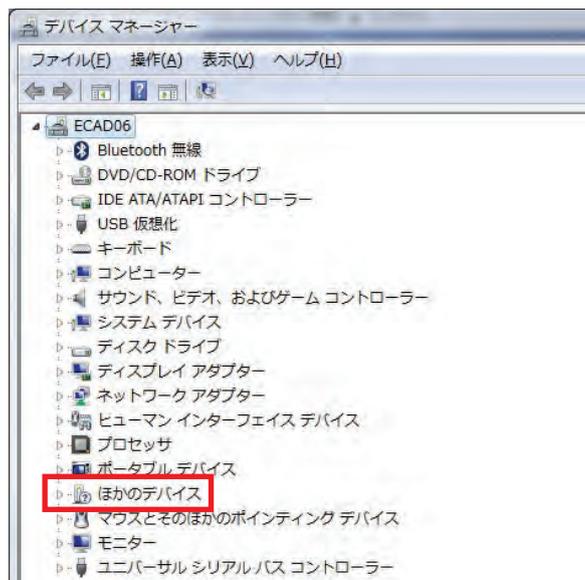
- 8 パソコン画面左下の「スタート」をクリックし、「コンピューター」を右クリックし「プロパティ」を選択しクリックする



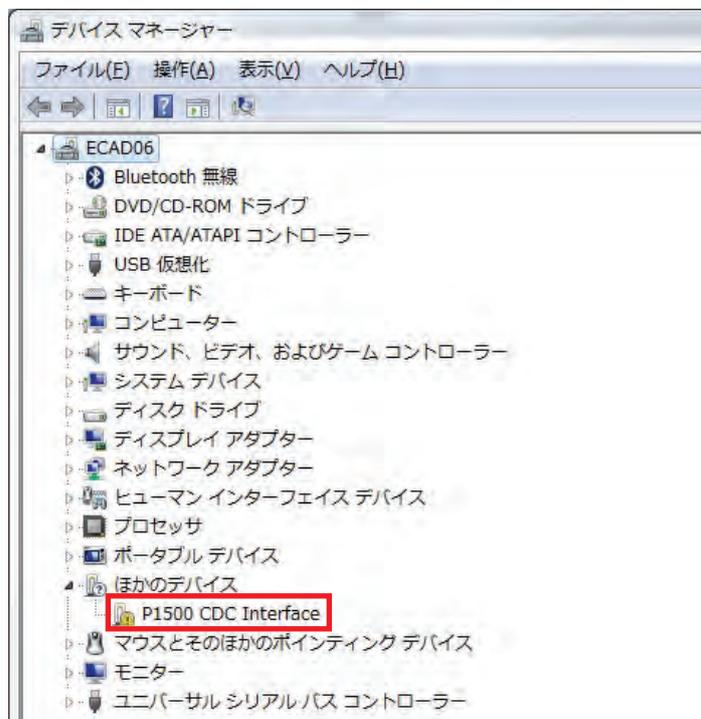
- 9 画面左上の「デバイスマネージャー」をクリックする



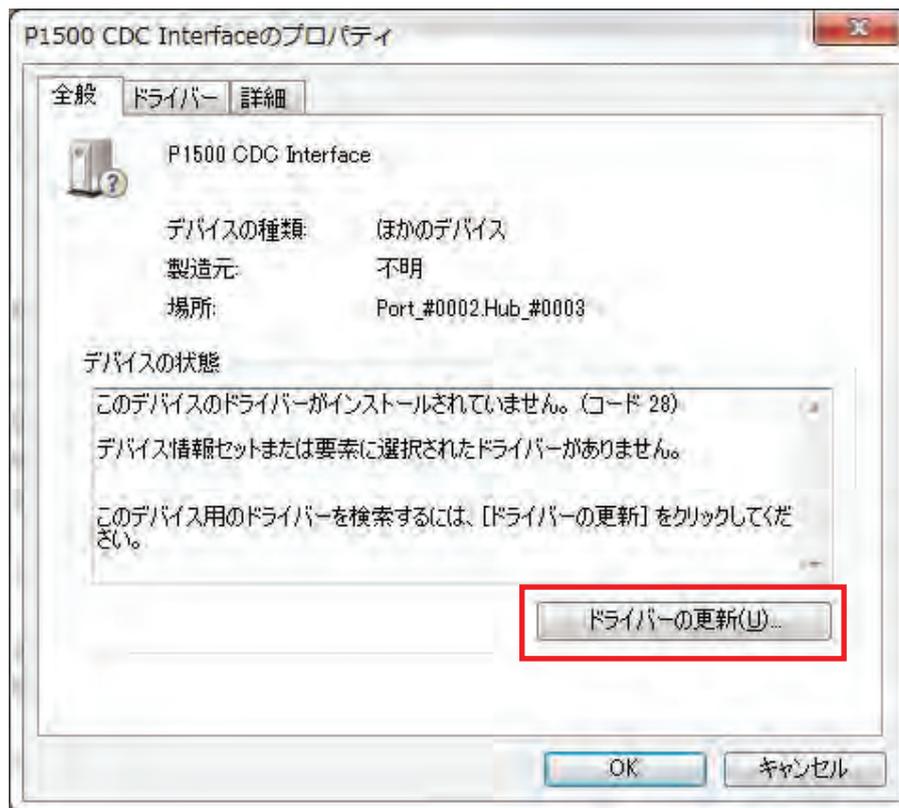
10 「ほかのデバイス」の左側にある小さい三角形をクリックする



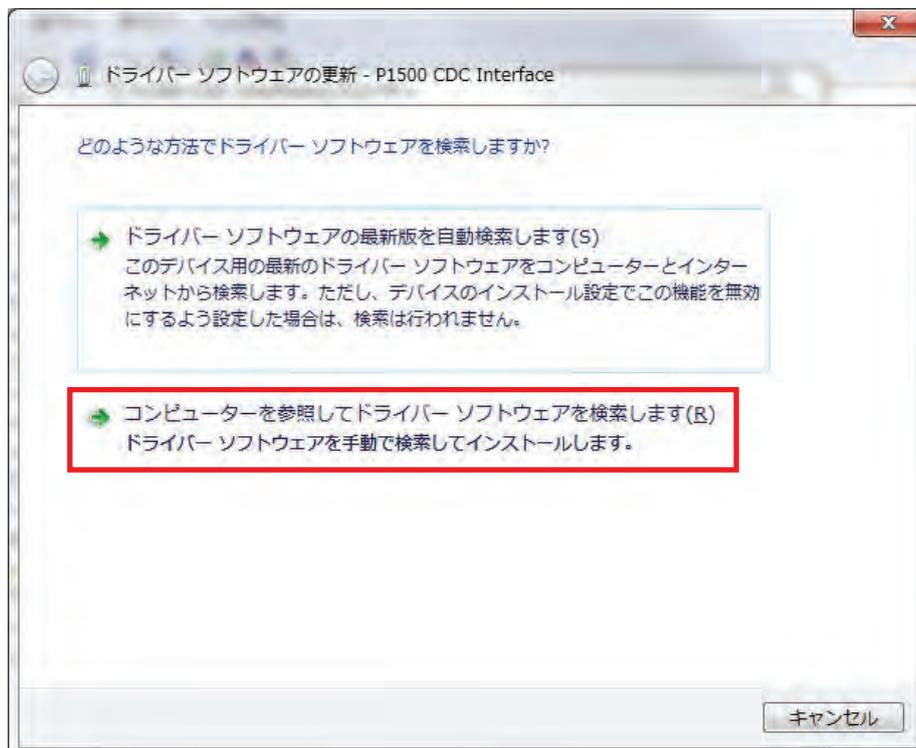
11 「P1500 CDC Interface」をダブルクリックする



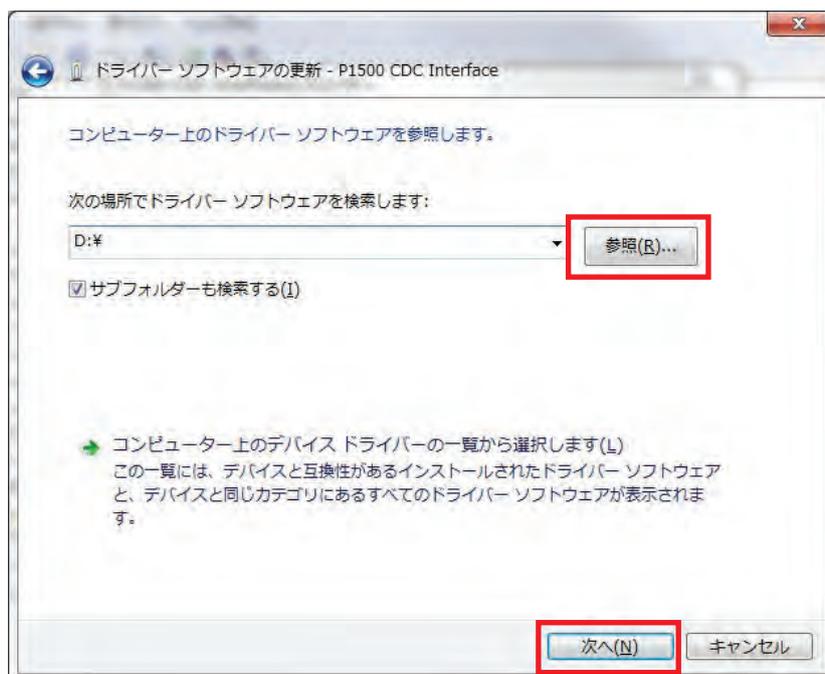
12 「全般」タブの「ドライバーの更新」をクリックする



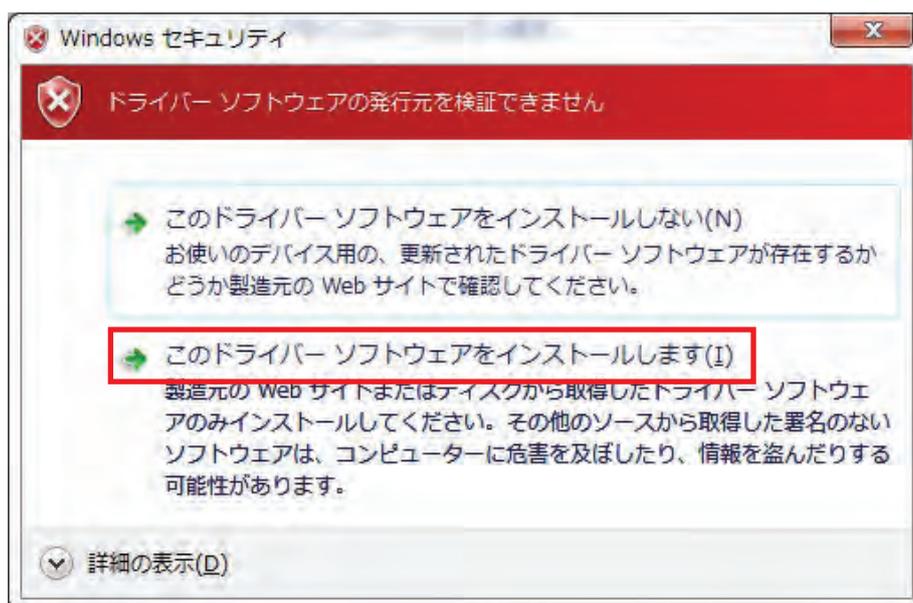
13 「コンピューターを参照してドライバーソフトウェアを検索します」をクリックする



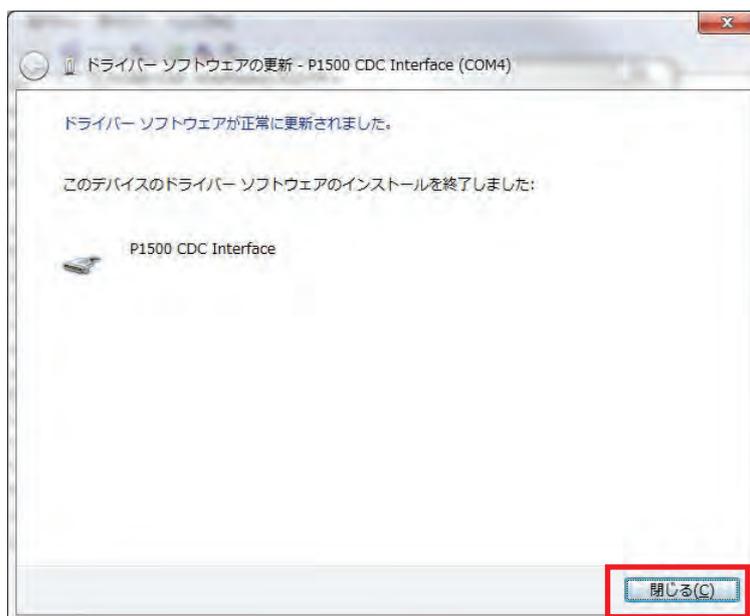
- 14 「参照」をクリックしCD-ROMを挿入したドライブを選択し、「次へ」をクリックする



- 15 「このドライバー ソフトウェアをインストールします」をクリックする



- 以下の画面が表示されたら、「閉じる」をクリックします。



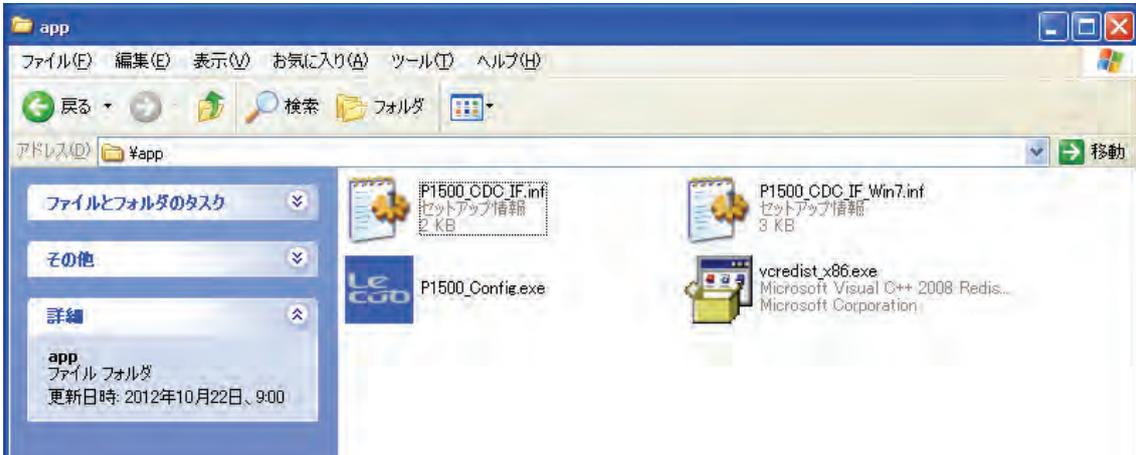
アドバイス

- ドライバーをインストール後に、そのままの状態ですべてのCD-ROM内のP1500設定ツールを起動して、本機の設定を行うことも可能です。

P1500 設定ツールを起動する

CD-ROM内のP1500設定ツールを起動します。

- ① P1500_ディーラーズマニュアル_CD-ROMをパソコンのCDドライブに入れる
- ② CD-ROM内の「app」フォルダをダブルクリックして開く



- ③ 「app」フォルダ内の「P1500_Config.exe」をダブルクリックする
 - P1500 設定ツールが起動します。



- 設定画面左上「COM3」となっていますが、お使いのパソコンによっては「COM」の後に表示される数字が変わる場合や、「COM」が表示されない可能性があります。

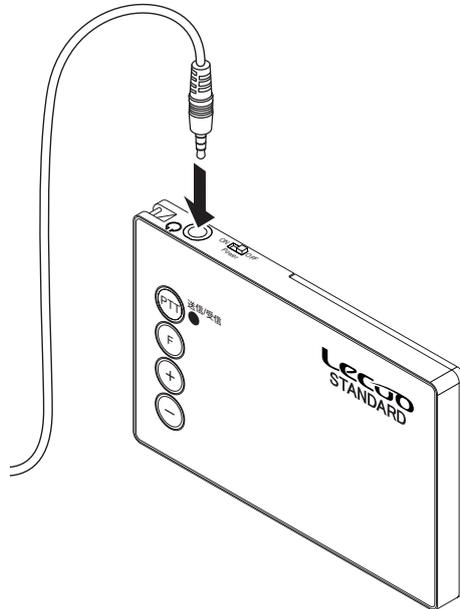
📌 アドバイス

- 設定値の部分、もしくは表を囲んでいる枠内へマウスポインタをもっていくと、項目の説明が表示されます。
- P1500_Config.exeを実行した場合にWindowsがエラーを表示する場合があります。その場合はvcredist_x86.exeをダブルクリックして実行してください。
- 「app」フォルダをデスクトップ等お好みの場所にコピーすることで、そのフォルダ内の「P1500_Config.exe」からP1500設定ツールを起動することができます。

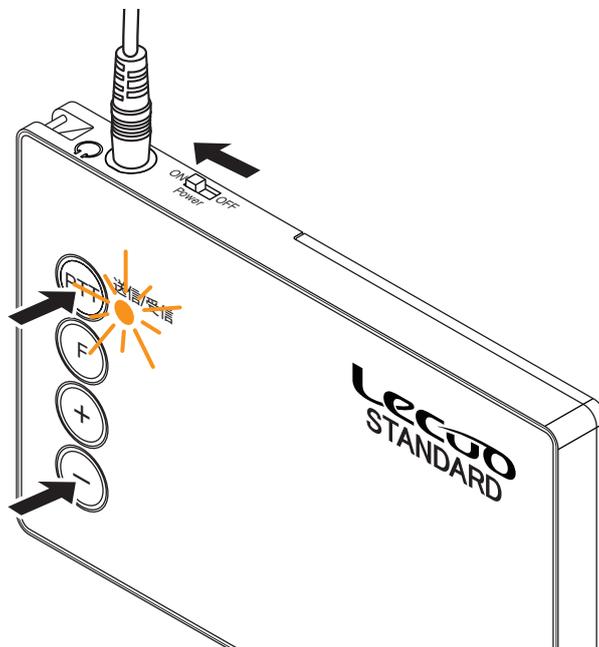
本機の設定をパソコンで変更できる状態にするには

P1500 設定ツールを起動したら、本機とパソコンを繋いで、設定を変更できる状態にします。

- 1 本機の電源スイッチを OFF 側にスライドして、電源を切る
 - イヤホンマイクも外してください。
- 2 パソコンと本機を付属の USB ケーブルで接続する



- 3 [PTT] ボタンと [-] ボタンを押しながら電源スイッチを ON 側にスライドして、電源を入れる



- ランプが橙色にゆっくり点滅します。

- 4 設定画面左上の「COM～」と表示されている部分の右側の▽をクリックすると新しく「COM～」が表示されるので、それを選択する



- 5 設定画面右上の「接続」をクリックする
- 現在の本機の設定が表示されます。



📝 アドバイス

- 表示される「COM～」の番号はお使いのパソコンによって異なります。
- [PTT] ボタンと [-] ボタンを押しながら電源スイッチをON側にスライドして、電源を入れてもランプが橙色に点滅しない場合は、ボタンがうまく押されていないことがあります。電源スイッチをOFF側にスライドして、再度 [PTT] ボタンと [-] ボタンを押しながら電源スイッチをON側にスライドしてください。

詳細表示にする

P1500 設定ツールにて「電源オン時設定確認」「初期値設定」「設定変更モード1」「設定変更モード2」の設定を行う際には詳細表示にする必要があります。

- 1 設定画面左上の「表示 (V)」をクリックする
 - 「詳細表示」が表示されます。



- 2 「詳細表示」をクリックする
 - 「通常」が表示されます。



③ 「通常」の横の▽ボタンをクリックし、表示される「詳細」をクリックする



- 詳細表示が表示されます。



P1500 設定ツールの各種の設定行うには

設定したい項目にマウスカーソルを合わせると横に  マークが出て、設定を変更することができます。

チャンネル設定

チャンネル番号およびトーン番号を設定します。

チャンネルは20個、トーンは38個あります。

- 1 チャンネル番号またはトーン番号にマウスカーソルを合わせる
 - 項目の横に  マークが表示されます。
 -  マークへマウスカーソルを合わせると、その項目に関する説明が表示されます。



- 2  をクリックする
 - 設定項目が表示されます。
 - チャンネル番号は「1、2、3、4、5、6、7～20」が表示されます。
 - トーン番号は「無し、1、2、3、4、5、6、7～38」が表示されます。
 - 隠れている数値は、スクロールバーのスライダーを上下することで表示されます。



③ 設定したい数字をクリックする

- 選択した値が設定されます。

チャンネル

チャンネル番号	トーン番号
3	無し

アドバイス

- 設定の変更を本機に書き込むには「設定の書込み」(P.77) を参照ください。

リピータ設定

リピータのチャンネル番号およびトーン番号を設定します。
チャンネルは27個、トーンは38個あります。

- 1 リピータのチャンネル番号またはトーン番号にマウスカーソルを合わせる
 - 項目の横に▼マークが表示されます。
 - ▼マークへマウスカーソルを合わせると、その項目に関する説明が表示されます。



- 2 ▼をクリックする
 - 設定番号が表示されます。
 - チャンネル番号は「1、2、3、4、5、6、7～27」が表示されます。
 - トーン番号は「無し、1、2、3、4、5、6、7～38」が表示されます。
 - 隠れている数値は、スクロールバーのスライダーを上下することで表示されます。



- 3 設定したい数字をクリックする
 - 選択した値が設定されます。



アドバイス

- 設定の変更を本機に書き込むには「設定の書込み」(P.77) を参照ください。

通話機能設定

通話機能の設定を一括で行えます。

① 設定したい項目にマウスカursorを合わせる

- 項目の横に▼マークが表示されます。
- ▼マークへマウスカursorを合わせると、その項目に関する説明が表示されます。



② ▼マークをクリックする

- 設定項目や設定値が表示されます。



③ 設定したい項目や数字をクリックする

- 選択した値が設定されます。

中継通話	解除
送信保持	解除
VOX機能	解除
VOX感度	3
マイク感度	低
受信専用	解除
クイック設定確認	解除
被呼通知音	解除
送信開始音	設定

中継通話 [※]	これを「設定」状態にするとリピータ（中継器）を介した通信になります。 標準通話を使用するときは「解除」を設定してください。
送信保持 [※]	これを「設定」状態にすると [PTT] ボタン押し続けなくても送信状態となります。 1度押すと送信状態となり、もう1度押すと送信を停止します。
VOX機能 [※]	これを「設定」状態にすると [PTT] ボタンを押さなくても声に反応して自動的に送信します。従ってハンズフリー送信が可能になります。「送信保持」との併用はできませんので「送信保持」は「解除」してください。
VOX感度切替 [※]	「VOX機能」の感度を切り替えることができます。感度は1～5まであり、大きい値ほど小さな声に反応し送信するようになります。「VOX機能」が「設定」になっている場合のみ有効となります。
マイク感度 [※]	お使いの環境に合わせて無線機のマイク感度を変更することができます。
受信専用 ^{※※}	これを「設定」状態にすると [PTT] ボタンを押しても送信ができなくなります（受信のみ可能となります）。
クイック設定 ^{※※}	これを「設定」状態にすると、[F] ボタンを素早く押すことで、電源をONにした際と同じ音声ガイドを読み上げます。
被呼通知音 ^{※※}	これを「設定」状態にすると、「標準通話」設定時に、受信の始めに「プッ」という効果音が鳴るようになります。 これを「設定」状態にすると、「中継通話」設定時に、リピータの起動に対し「ピピピッ」という効果音が鳴るようになります。
送信開始音 ^{※※}	これを「設定」状態にすると、送信の始めに「プッ」という効果音が鳴るようになります。この音が鳴ってからお話しください。

※：本機またはP1500設定ツールで設定可能な項目です。

※※：P1500設定ツールでのみ設定が可能な項目です。

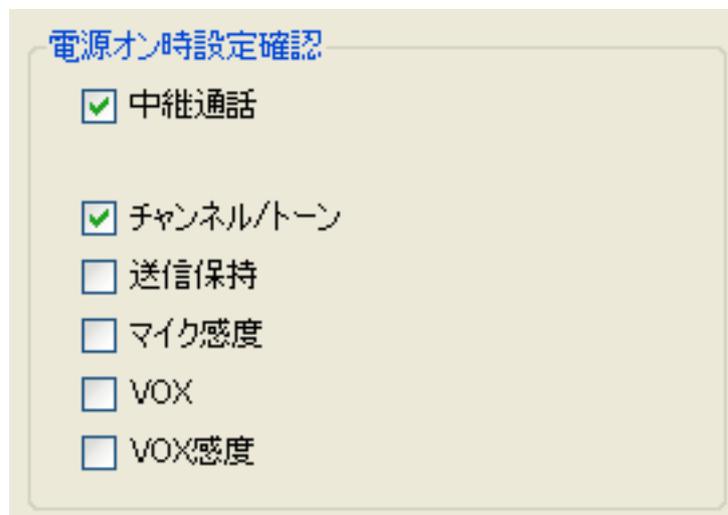
📌 アドバイス

- 中継通話は別売のリピータを用い、通話距離を伸ばす用途の時のみ「設定」状態にします。リピータを用いない場合必ず「解除」を状態にしてください。
- 設定の変更を本機に書き込むには「設定の書込み」(P.77) を参照ください。

電源オン時設定確認

電源を入れた時に設定項目を音声ガイドで案内することで、その設定内容を確認できます。

- 1 P1500 設定ツールの表示を詳細表示にする
 - この設定は詳細表示でないと設定できません。詳細表示にするには「詳細表示にする」(P.66) を参照ください。
- 2 設定したい項目の (チェックボックス) にマウスカーソルを合わせ、クリックする



- (チェックボックス) が空欄の項目をクリックすると、✓が入ります。✓が入っている項目が音声ガイドで案内されます。
- (チェックボックス) に✓が入っている項目をクリックすると、空欄になります。✓が入っていない項目は音声ガイドで案内されません。
- 全ての (チェックボックス) を空欄にすると、電源を入れた時の音声ガイドが無くなります。

📌 アドバイス

- 出荷時設定では「中継通話」、「チャンネル/トーン」のチェックボックスにチェックが入っています。
- 設定の変更を本機に書き込むには「設定の書込み」(P.77) を参照ください。

初期値設定

P1500 設定ツールで設定を行い、設定の書込み後、初めて電源を入れた時の音量の設定です。

① P1500 設定ツールの表示を詳細表示にする

- この設定は詳細表示でないと設定できません。詳細表示にするには「詳細表示にする」(P.66) を参照ください。

② 音量の項目にマウスカーソルを合わせる

- 項目の横に▼マークが表示されます。
- ▼マークへマウスカーソルを合わせると、その項目に関する説明が表示されます。



③ ▼をクリックする

- 設定項目が表示されます。
音量：1～5



④ 設定したい音量をクリックする



アドバイス

- 設定の変更を本機に書き込むには「設定の書込み」(P.77) を参照ください。

設定変更モード1、2

設定変更モード1、2とするための[F] ボタンの長押し時間および設定変更項目の設定を行います。「設定変更モード1」は1つの設定変更項目を設定できます。「設定変更モード2」は最大5つまで設定変更項目を設定できます。

① P1500 設定ツールの表示を詳細表示にする

- この設定は詳細表示でないと設定できません。詳細表示にするには「詳細表示にする」(P.66) を参照ください。

② 設定したい項目にマウスカーソルを合わせる

- 項目の横に▼マークが表示されます。
- ▼マークへマウスカーソルを合わせると、その項目に関する説明が表示されます。



③ ▼をクリックする

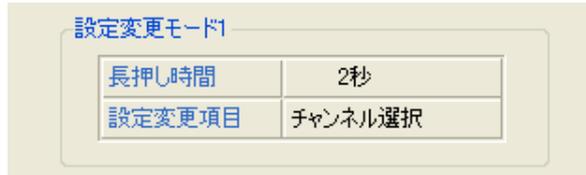
- 設定項目が表示されます。



4 設定したい項目をクリックする

アドバイス

- 「設定変更モード1」には比較的良好に使われる機能を設定することをお勧めします。
 - 「設定変更モード1」と「設定変更モード2」の「長押し時間」を近い値にすると「設定変更モード1」を選択するのが困難になります。「設定変更モード1」「設定変更モード2」の時間は2秒以上離して設定してください。設定する必要がない項目は未使用にすることができます。
 - 設定の変更を本機に書き込むには「設定の書き込み」(P.77)を参照ください。
- 設定変更モード1の出荷時設定は以下のようになっています。



長押し時間	2秒
設定変更項目	チャンネル選択

- 設定変更モード2の出荷時設定は以下のようになっています



長押し時間	5秒
順番	設定変更項目
1	中継通話切替
2	マイク感度切替
3	VOX切替
4	VOX感度切替
5	送信保持切替

出荷時設定では

本体の [F] ボタンを2秒以上5秒未満長押しすると設定項目は「チャンネル選択」になります。引き続き [F] ボタンを5秒以上の長押しで「設定変更モード2」の設定になります。順番1に設定した「中継通話切替」の音声ガイドで案内されます。[+] または [-] ボタンを何度か押し設定したいところで [F] ボタンを押すことで、変更したい項目を選択し、設定を変更できるようになります。

設定の書き込み

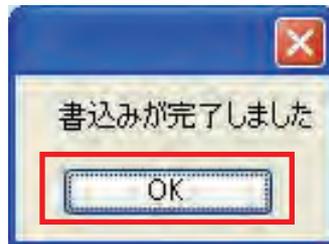
設定が全て終わりましたら設定内容を本機に書き込む必要があります。

① 設定画面右上の「書込」ボタンをクリックする

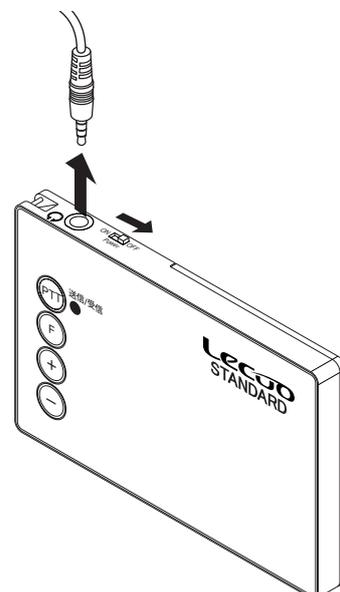


- 正常に書き込みが終了した場合、「書き込みが完了しました」のメッセージが表示されます。

② 「OK」ボタンをクリックする



③ 設定画面右上の「切断」をクリックしたらUSBケーブルを外し、本機の電源をオフにする



複数台に同じ設定を書込む場合

- ① 書込みが終了したら「切断」をクリックし、無線機側のUSBケーブルを外す
- ② 書き込みを行いたい無線機をUSBケーブルでパソコンと接続する
- ③ [PTT] ボタンと [-] ボタンを押しながら電源スイッチをON側にスライドして、電源を入れる
 - ランプが橙色に点滅します。
- ④ 設定画面に新しく表示される左上の「COM～」をクリックし、「接続」をクリックする
- ⑤ 「書込」をクリックする
- ⑥ 「書込みが完了しました」のメッセージが表示されたら「OK」ボタンをクリックする
- ⑦ 「切断」をクリックし、無線機側のUSBケーブルを外す
 - ②の作業に戻ります。

アドバイス

- 設定画面左上の「ファイル」から「印刷」をクリックすることで設定の画面の印刷ができます。設定をすぐ確認できるように、印刷し保存しておくことをお勧めします。

設定内容をファイルに保存する場合

- ① メニューバーの「ファイル」から「名前を付けて保存」をクリックする
- ② 保存するホルダーおよび保存するファイル名を入力する
 - 保存しているファイルを呼び出す場合はメニューバーの「ファイル」から「開く」をクリックします。

保存しているファイルを呼び出す場合

- ① メニューバーの「ファイル」から「開く」をクリックする
- ② 保存しているファイルのホルダーおよびファイル名を選ぶ

周波数対応表

標準通話周波数一覧

順番	周波数 (MHz)	チャンネル番号
1	422.0500	1
2	422.0625	2
3	422.0750	3
4	422.0875	4
5	422.1000	5
6	422.1125	6
7	422.1250	7
8	422.1375	8
9	422.1500	9
10	422.1625	10
11	422.1750	11
12	422.2000	12
13	422.2125	13
14	422.2250	14
15	422.2375	15
16	422.2500	16
17	422.2625	17
18	422.2750	18
19	422.2875	19
20	422.3000	20

中継通話周波数一覧

順番	周波数 (MHz)		チャンネル番号
1	421.5750	440.0250	1
2	421.5875	440.0375	2
3	421.6000	440.0500	3
4	421.6125	440.0625	4
5	421.6250	440.0750	5
6	421.6375	440.0875	6
7	421.6500	440.1000	7
8	421.6625	440.1125	8
9	421.6750	440.1250	9
10	421.6875	440.1375	10
11	421.7000	440.1500	11
12	421.7125	440.1625	12
13	421.7250	440.1750	13
14	421.7375	440.1875	14
15	421.7500	440.2000	15
16	421.7625	440.2125	16
17	421.7750	440.2250	17
18	421.7875	440.2375	18
19	421.8125	440.2625	19
20	421.8250	440.2750	20
21	421.8375	440.2875	21
22	421.8500	440.3000	22
23	421.8625	440.3125	23
24	421.8750	440.3250	24
25	421.8875	440.3375	25
26	421.9000	440.3500	26
27	421.9125	440.3625	27

トーン一覧

順番	トーン番号	トーン周波数
0	無し	トーン無し
1	1	67Hz
2	2	71.9Hz
3	3	74.4Hz
4	4	77Hz
5	5	79.7Hz
6	6	82.5Hz
7	7	85.4Hz
8	8	88.5Hz
9	9	91.5Hz
10	10	94.8Hz
11	11	97.4Hz
12	12	100Hz
13	13	103.5Hz
14	14	107.2Hz
15	15	110.9Hz
16	16	114.8Hz
17	17	118.8Hz
18	18	123Hz
19	19	127.3Hz

順番	トーン番号	トーン周波数
20	20	131.8Hz
21	21	136.5Hz
22	22	141.3Hz
23	23	146.2Hz
24	24	151.4Hz
25	25	156.7Hz
26	26	162.2Hz
27	27	167.9Hz
28	28	173.8Hz
29	29	179.9Hz
30	30	186.2Hz
31	31	192.8Hz
32	32	203.5Hz
33	33	210.7Hz
34	34	218.1Hz
35	35	225.7Hz
36	36	233.6Hz
37	37	241.8Hz
38	38	250.3Hz

工場出荷設定

標準通話

チャンネル番号	トーン番号
10	無し

リピータ

チャンネル番号	トーン番号
15	無し

初期値設定

音量	1
----	---

通話機能設定

中継通話	解除
送信保持	解除
VOX 機能	解除
VOX 感度	3
マイク感度	低
受信専用	解除
クイック設定	設定
被呼通知音	解除
送信開始音	設定

電源オン時設定確認

<input checked="" type="checkbox"/>	中継通話
<input checked="" type="checkbox"/>	チャンネル/トーン
<input type="checkbox"/>	送信保持
<input type="checkbox"/>	マイク感度
<input type="checkbox"/>	VOX
<input type="checkbox"/>	VOX 感度

MENU ボタン長押し 1

長押し時間	2秒
設定変更項	チャンネル選択

MENU ボタン長押し 2

長押し時間	5秒
-------	----

順番	設定変更項目
1	中継通話切替
2	マイク感度切替
3	VOX 切替
4	VOX 感度切替
5	送信保持切替

定格、外形寸法

本体定格

一般仕様

使用周波数.....	422.0500MHz ~ 422.3000MHz (単信) 440.0250MHz ~ 440.3625MHz (半複信送信) 421.5750MHz ~ 421.9125MHz (半複信受信)
電波形式	F3E
通信方式	単信・半複信方式
電源電圧	DC3.7V
発振方式	水晶発振により制御する周波数シンセサイザー方式
アンテナ	ループアンテナ
周波数切替方式	手動切替
使用温度範囲	-10℃~+50℃
寸法	幅83.0mm 高さ8.0mm 奥行き54.0mm (突起物含まず)
質量	約63g (リチウムイオン電池パック含む)

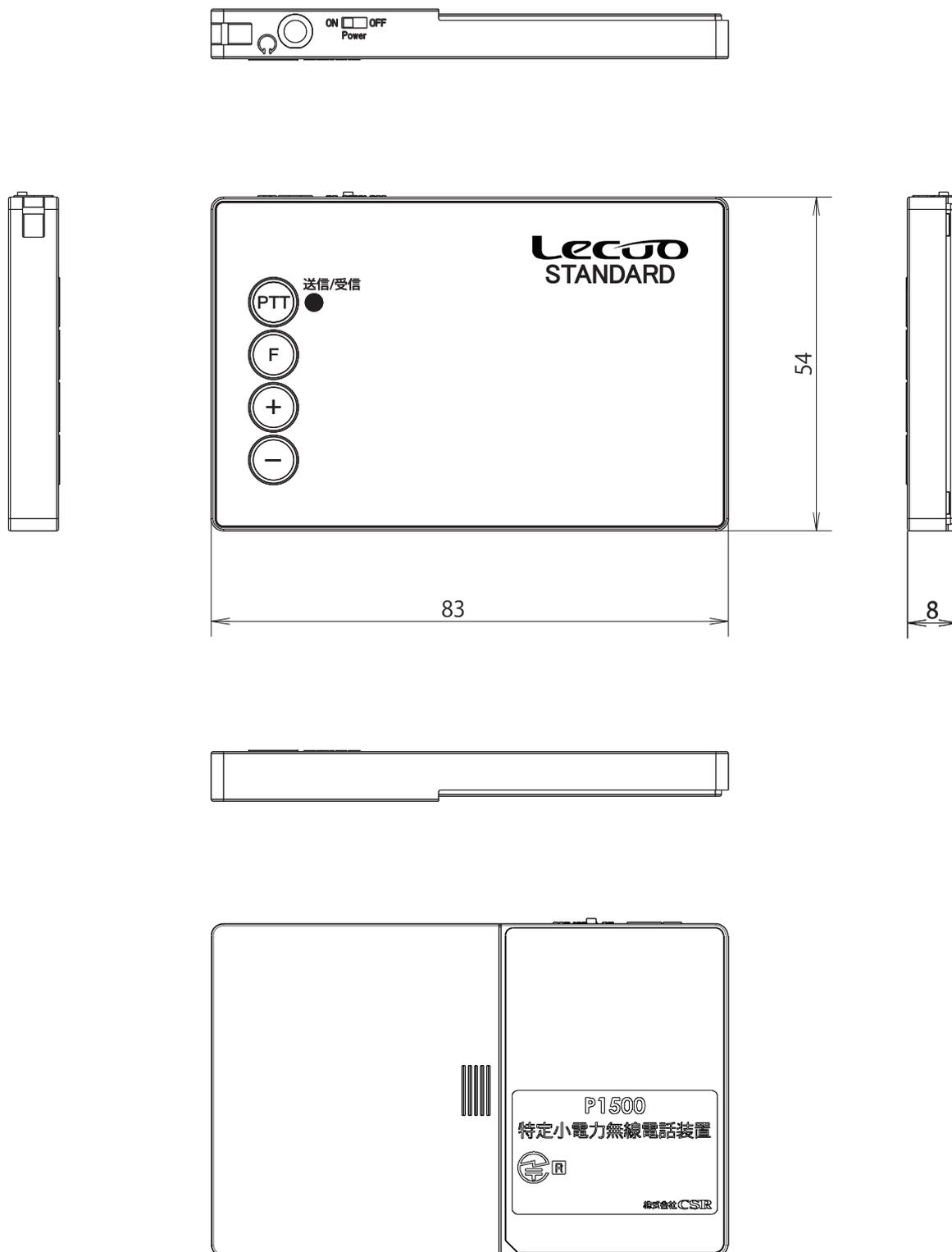
送信仕様

送信出力	10mW以下
周波数の偏差	±4.0ppm以下
占有周波数帯幅	8.5kHz以内
スプリアス発射強度	2.5 μW以下
最大周波数偏移	±2.5kHz以下
変調方式	周波数変調方式

受信仕様

受信方式	スーパーヘテロダイン方式
受信感度	-8dBu以下 (12dB SINAD)
スケルチ感度	-10dBu以下
低周波出力.....	2.0mW以上 (32 Ω負荷)
副次的に発する電波等の限度	4nW以下

本体外形寸法

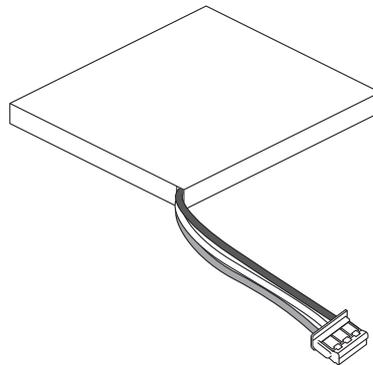


本機の仕様および外観は、改良のため予告無く変更することがありますのでご了承ください。

オプション

リチウムイオン電池パック LB150JA

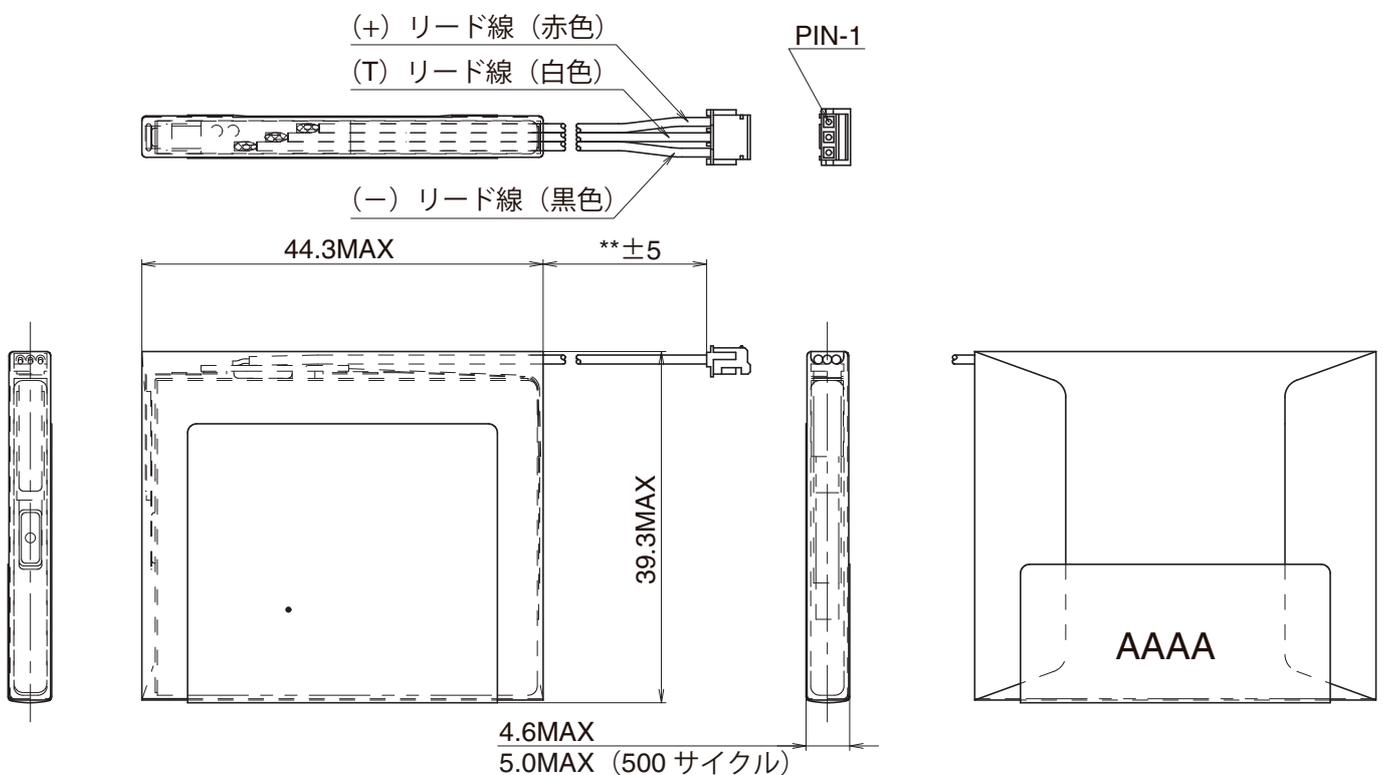
無線機 P1500 に接続して、AC アダプター AC150JA または急速充電器 CG150JA を使って充電します。



定格

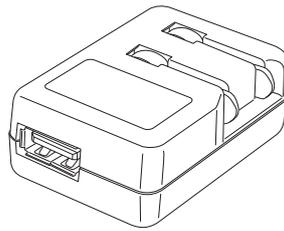
定格電圧	3.7V
定格容量	650mAh
使用温度範囲	- 10°C ~ + 50°C
充電温度範囲	0°C ~ + 40°C
質量	約 15g

外形寸法図



ACアダプター AC150JA

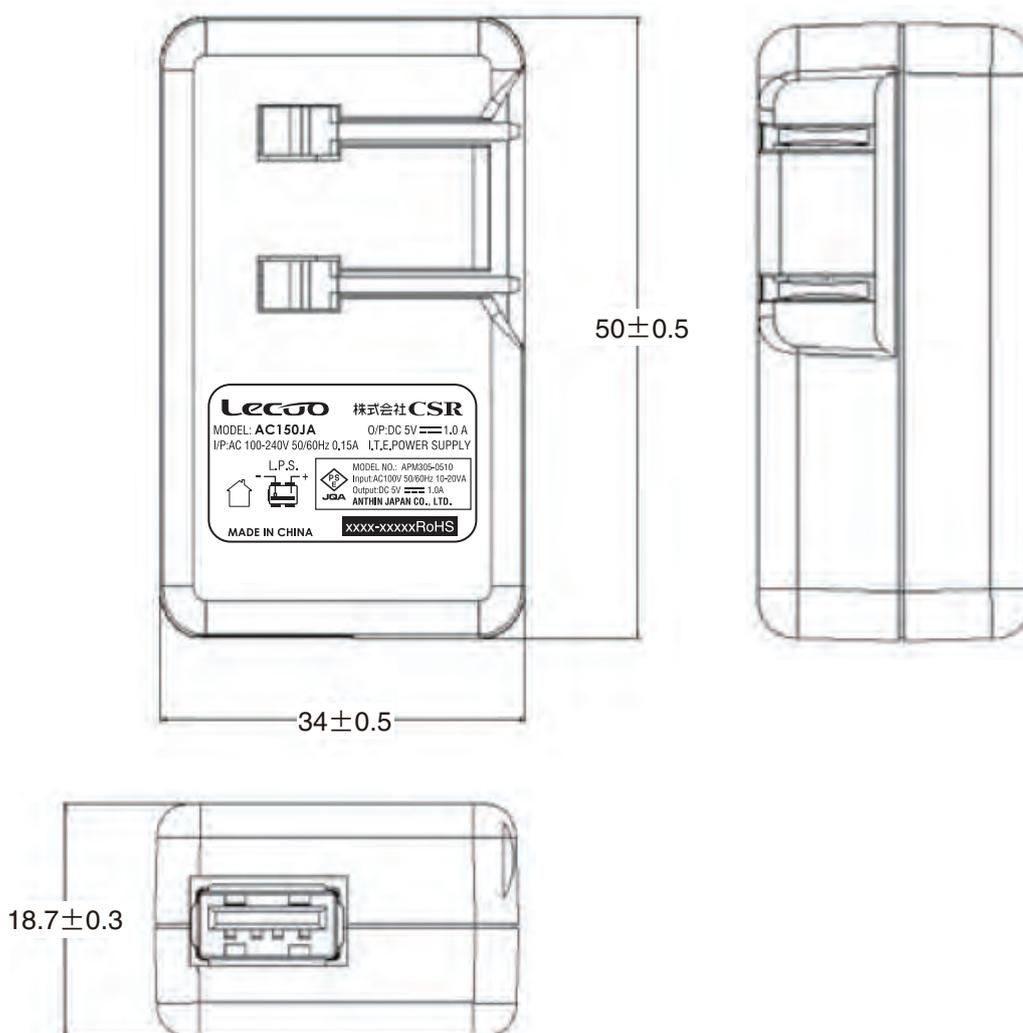
充電時にUSBケーブルAW150JAを使って無線機P1500と接続します。



定格

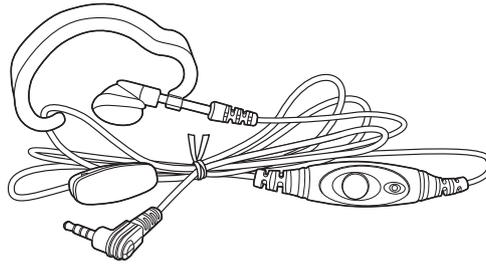
入力電圧 AC100V 50/60Hz 0.15A
出力電圧 DC5V 1A
使用温度範囲 0°C～+40°C
寸法 幅34mm 高さ18.7mm 奥行き50mm (突起物含まず)
質量 約43g

外形寸法図



ヘッドセット MP150JA

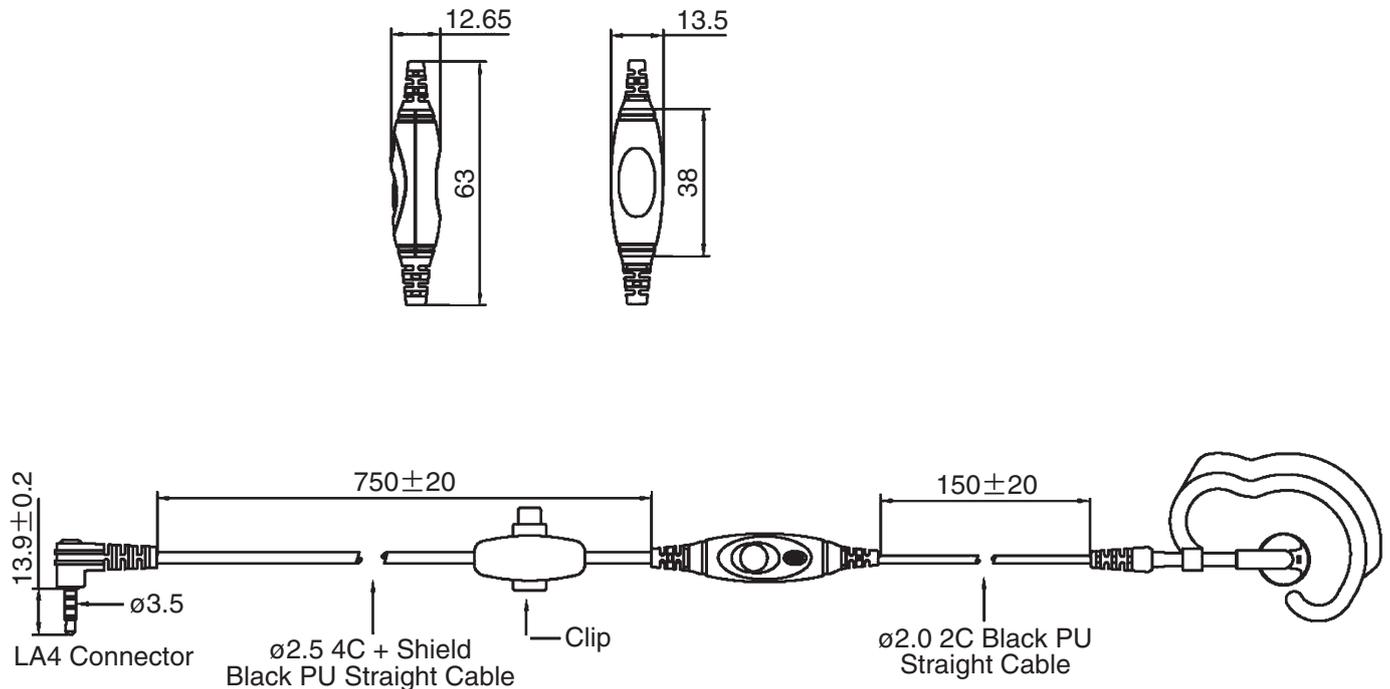
PTTスイッチとマイク部が一体となった耳かけ式のヘッドセットです。



定格

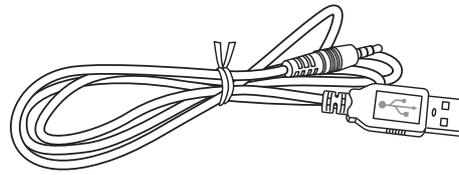
マイクロホン形式.....	コンデンサーマイクロホン
マイクロホンサイズ.....	Φ 6x5.0mm
マイクロホン感度.....	-40dB ± 2dB
マイクロホンインピーダンス.....	2.2K Ω ± 10%
イヤホンサイズ.....	Φ 14.8x4.4mm
イヤホンインピーダンス.....	32 Ω ± 15%
イヤホン定格入力.....	0.3W
イヤホン最大入力.....	0.5W

外形寸法図

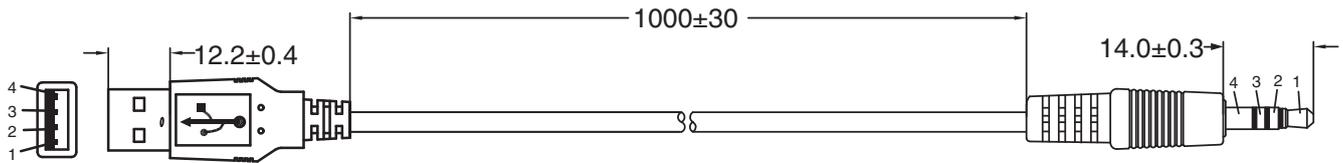


USBケーブル AW150JA

充電時に無線機P1500とACアダプター AC150JAを接続するケーブルです。
また、パソコンと無線機P1500を接続するときに使います。



外形寸法図

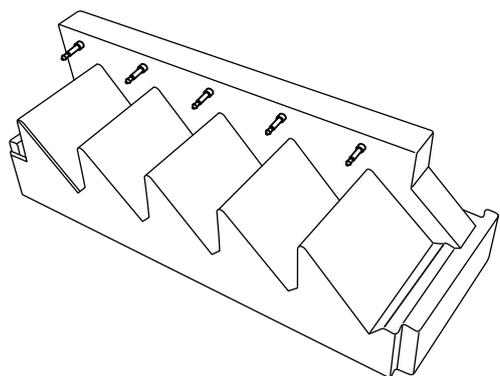


PIN OUT

USB A/M		3.5ST/M(4POLE)
1	RED	4
2	WHITE	1
3	GREEN	2
4	BLACK	3

急速充電器 (LB150JA 専用) CG150JA

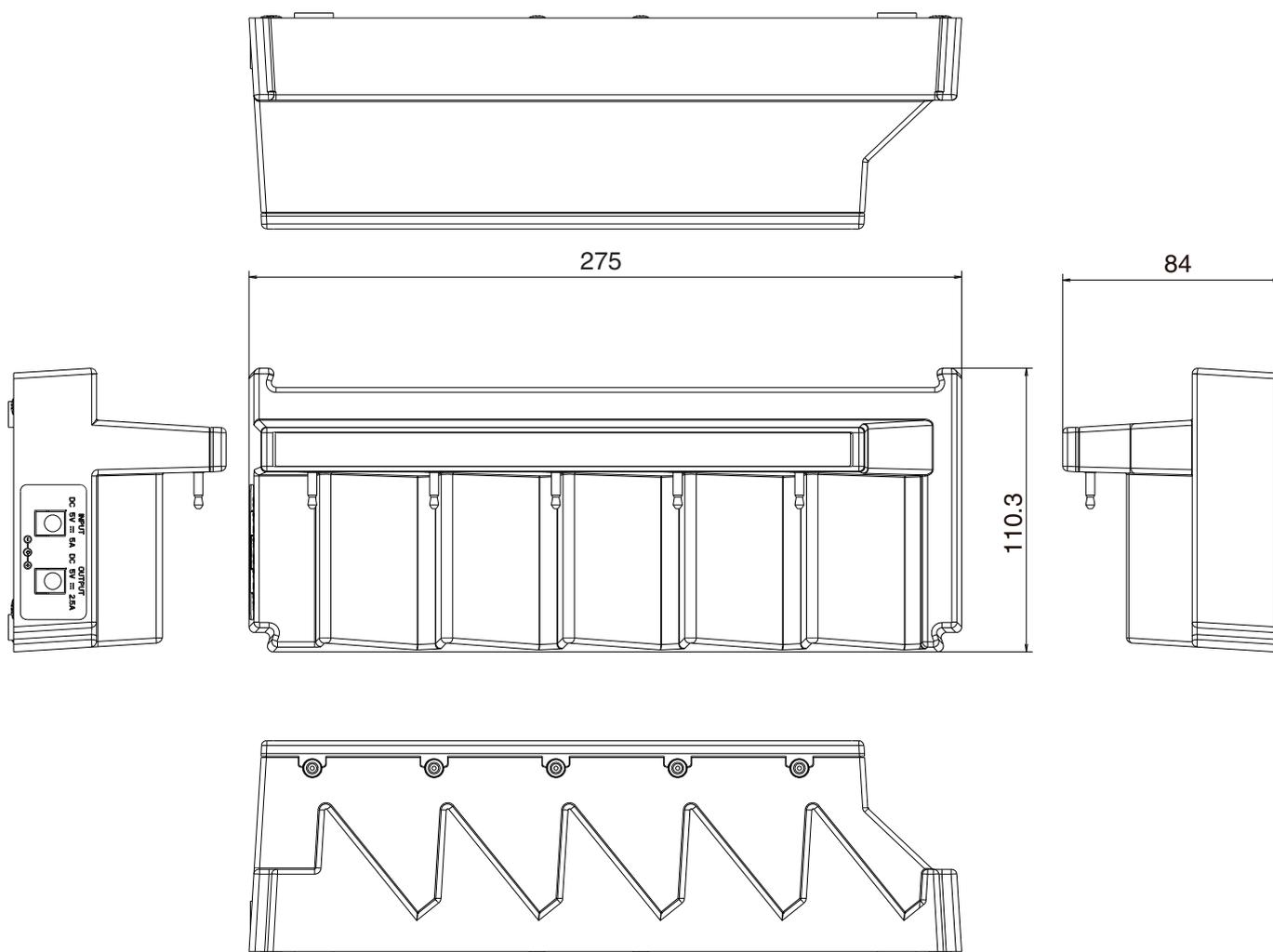
リチウム電池LB150JAを接続した無線機P1500を5台まで同時に充電できます。
また、急速充電器CG150JAをもう一台接続することで、最大10台まで同時に充電できます。



定格

入力電圧	AC100V 50/60Hz 0.5A
出力電圧	DC5V 5A
充電時間	約180分
※充電時間は、電池パックを使い切ってから急速充電を行ったときの時間です。	
※充電時間は、周囲の温度により多少変化します。	
DCアウトレット	DC5V 2.5A
使用温度範囲	0℃～+40℃
寸法	275mm×111mm×84mm (幅×奥行き×高さ、突起物含まず)
質量	約480g
電池パックの定格	3.7V 650mA

外形寸法図



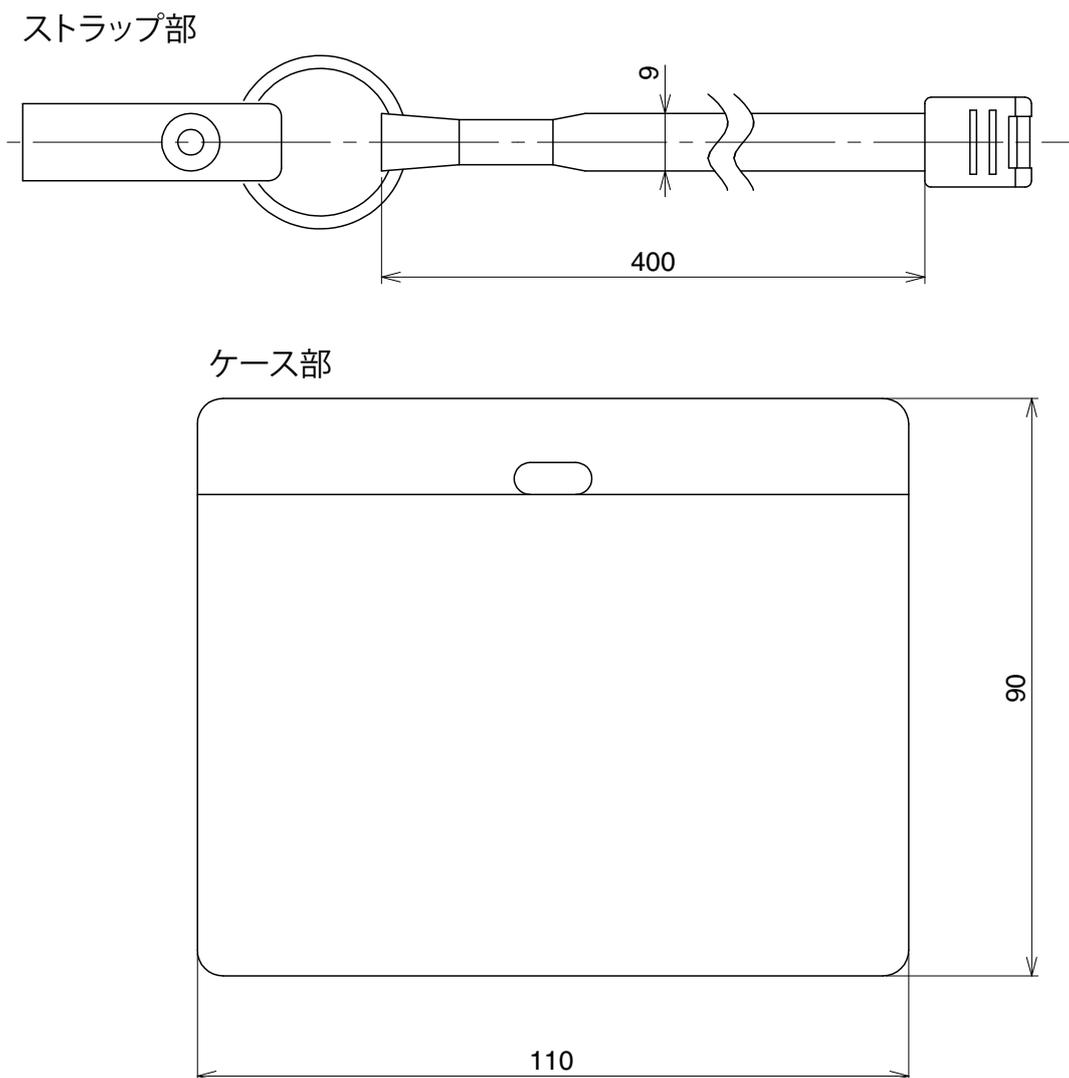
キャリングケース LC150JA

無線機P1500用のキャリングケースです。ただし、このケースを使用しても防水や防塵を保証するものではありません。

定格

寸法 (幅×高さ) 110mm × 90mm
ストラップ長 400mm

外形寸法図



その他

故障かな?と思ったら

無線機が正常に作動しない場合には、まず以下の内容をご確認ください。

症 状	確 認	処 置
音声ガイドが聞こえない。	電池パックは充電されていますか？	お買い上げ時、電池パックは満充電されていません。付属ACアダプターとUSBケーブルで充電してください。また長期間ご使用にならなかった時でも充電してからお使いください。
	電源ON時に音声ガイドは聞こえますか？	聞こえない場合「電源オン時設定確認」(P.73)の項目が全てチェック無しになっている可能性があります。CD-ROM内のP1500設定ツールを用い、適当なチェックを入れ、音声ガイドが聞こえる事を確認してください。
通信ができない。	「中継通話」の設定が間違っていないですか？	「標準通話」(リピータを用いない通話)を行う場合は「中継通話」設定を「解除」状態にする必要があります。「中継通話」(中継機を用いた通話)を行う場合は「中継通話」設定を「設定」状態にする必要があります。「通話機能設定」(P.71)を参照し設定してください。
	通話したいP1500同士のチャンネル番号、トーン番号はありますか？	通話したいP1500の設定を全て同じにしてください。
「プップ」という音が定期的に聞こえる。	橙色ランプが定期的に点滅していますか？	電池パックが消耗しています。充電を行ってください。
「装置に障害があります」の音声ガイドが聞こえ、ランプが速い赤色点滅になる。	もう一度電源を入れ直してください。	回復しない場合はCSRカスタマーサポートへ修理依頼を行ってください。(音声データ用メモリまたはデータフラッシュメモリが壊れています。)

保証・アフターサービス (よくお読みください)

【保証書 (別添)】

この製品には、保証書を (別途) 添付しております。保証書は、必ず「お買い上げ日・販売店名」などの記入をお確かめのうえ、販売店から受け取っていただき、内容をよくお読みの後、大切に保管してください。

【保証期間】

保証期間は、お買い上げ日より**1年間**です。

【保証用性能部品の最低保有期限】

弊社はこの本製品の補修用性能部品を製造打ち切り後、8年保有しています。(補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。)

【修理に関する相談窓口】

修理に関するご相談ならびに不明な点はお買い上げの販売店またはCSRカスタマーサポートへお問い合わせください。

CSR カスタマーサポート

0120-973-698

e-mail : lecuo_support@kcsr.co.jp

ご相談受付時間 9:00 ~ 17:00 (土日祝日を除く)

修理を依頼されるときは

「故障かな?と思ったら」(P.90)を参照してお調べください。それでも異常があるときは、製品の電源を切って、お買い上げの販売店またはCSRカスタマーサポートへお問い合わせください。

お願い

- 修理に出された場合、設定されたデータが消去される場合がありますので、別途お客様ご自身でお控えくださいますようお願い致します。また、本機の故障、誤動作、不具合などによって通話などの利用の機会を逸したために発生した損害などの付随的損害につきましては、弊社は一切その責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。

【保証期間中は】

正常な使用状態で故障が生じた場合、保証書の規定に従って、お買い上げの販売店またはCSRカスタマーサポートが修理させていただきます。修理に際しましては、保証書をご提示ください。

【保証期間が過ぎているときは】

修理すれば使用できる場合には、ご希望により有料で修理させていただきます。

持込修理

この製品は持込修理とさせていただきます。修理をご依頼のときは、製品名、製造番号、お買い上げ日、故障の状況(できるだけ具体的に)、ご住所、お名前、電話番号をお知らせください。

【修理料金の仕組み】(有料修理の場合は次の料金が必要です)

技術料：製品の故障診断、部品交換など故障箇所の修理および付帯作業にかかる費用です。技術者の人件費、測定器など設備費、一般管理費などが含まれます。

部品代：修理に使用した部品代です。その他修理に付帯する部材などを含む場合もあります。

送料：郵便、宅配便などの料金です。保証期間内に無償修理などを行うにあたって、お客様に負担していただく場合があります。

株式会社CSR

〒 252-0303 神奈川県相模原市南区相模大野 5 丁目 33 番 4 号

当社の最新情報をインターネット上で確認してください。

<http://www.kcsr.co.jp/>

CSR カスタマーサポート



0120-973-698

e-mail : lecuo_support@kcsr.co.jp

ご相談受付時間

9:00 ~ 17:00

(土日祝日を除く)

お問い合わせは、販売店あるいは CSR カスタマーサポートで承っております。